

279.5
149



0053030-000

279.5-149

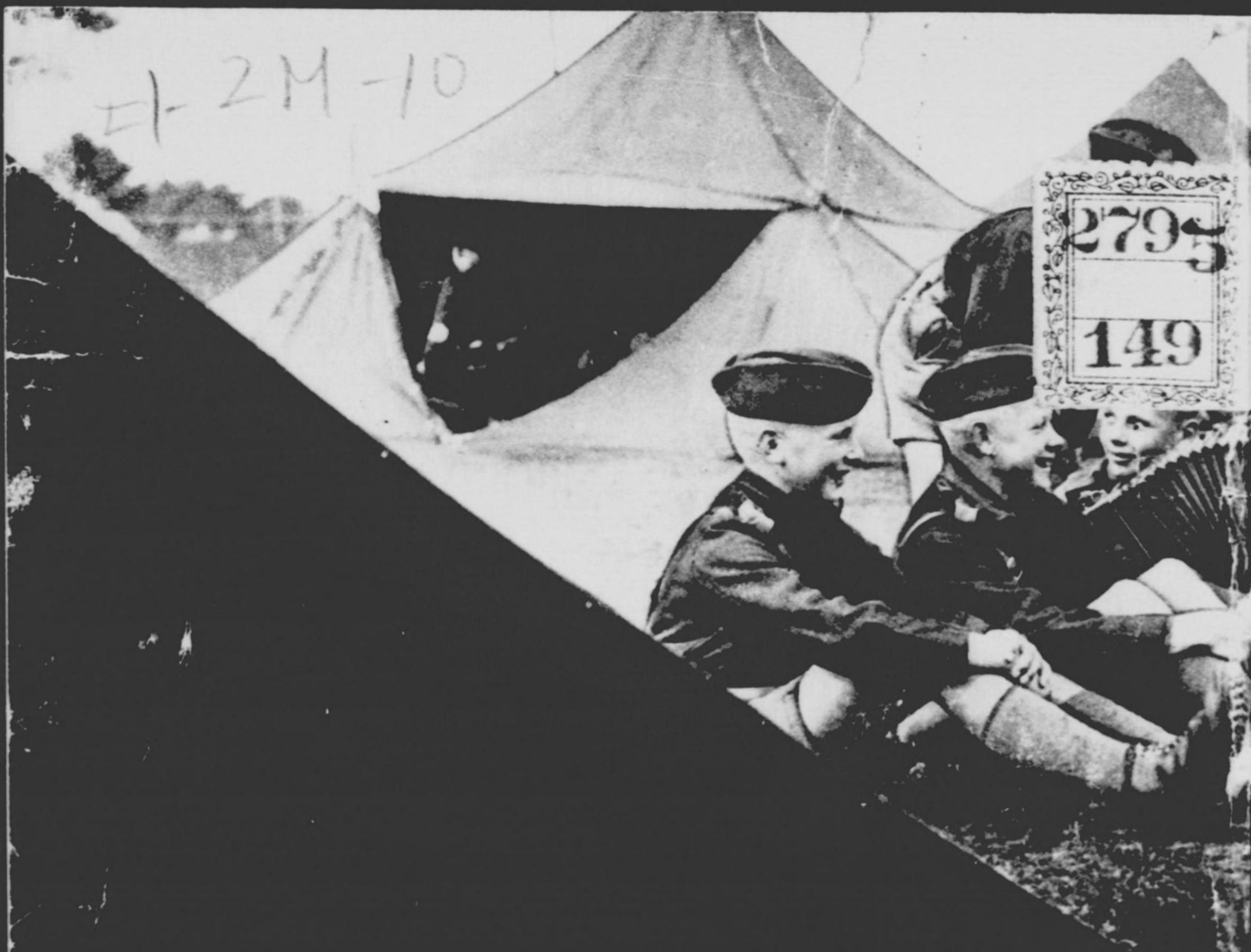
ヒトラー・ユーゲント

報知新聞社通信部・編

日本青年館

昭13

AHP



Hitler-Jugend

ヒトラー・ユーゲント

(大戦時代より今日までの
ドイツ青年運動の実際)



第一卷 成
書 大事
貞夫題

にめたの書本
字題の下閣夫貞木荒臣大部文

279.5
149

序

人間はしばしば、逆境に陥つて鍛練しなければ確乎たる人間にはなれぬ。逆境の間にねりあげた膽力・智力・勇氣が一代の事業を完成するやうに、歐洲大戦後の苦難の底から今日のドイツの繁榮を築きあげたドイツ青年の燃ゆるが如き祖國愛に對して敬意を表する。殊にその中堅となつて多くの高價なる犠牲を拂ひ、困苦の歴史を克服して輝かしい業績を誇るヒトラー・ユーンゲントの今日は世界青年運動中の白眉であらう。報知新聞社の厚意により、時恰も友邦ドイツ青年團代表の來朝を前にして本書の上梓を見たことは誠に欣幸に堪へぬ。本書が日本青年運動の爲に多大に裨益するであらうことを信じ、てやまぬ次第である。

昭和十三年夏

大日本聯合青年團理事長

香坂昌

康





ヒトラー・ユーゲント

大戦時代より今日までの
ドイツ青年運動

(附) アルバイト・ザインスト
労働奉仕



まへがき

“ヒトラー青年團”とは友邦ドイツの青年團である。それは現代ドイツの青年層全體を覆ふ名稱であり、青年ドイツの最も具體的な姿である。それは大戦後の灰燼からもく／＼として立ち上つた第三帝國の全歐を輝かす炬火であり、明日のドイツを呼ぶ若人八百萬の大合唱である。

“ヒトラー青年團”は一九三八年度の行動目標を“提携”の二字に置いてゐる。諸外國との親睦と提携を本年のプランとして設定した同團では“訪日青少年使節團”を編成、レデック團長、ユルゲン副團長はじめ三十名の一行は八月十六日横濱入港のドイツ汽船グナイゼナウ號で來朝し、上陸後の豫定は、嶽麓山中湖畔で日本青年團代表百餘名と共に野營生活を營むのを始め關東、東北、北海道、中京、關西および四國、九州の各地方を約三ヶ月の豫定で巡歴し全日本の青年との間に美しい親善

の握手を交すことになつてゐる。この訪問に先立ちわが國からも訪獨青少年代表が選拔され、われ々の郷土の青年と少年を代表した使節團三十名はヒトラー・ユーゲンツの母國で貴い交驛の使命を果しつゝある。

友邦の契りますく固い防共の線上で兩國の青年の手は固く握られねばならぬが、われ々青年と青年を思ふものにと取つても盟邦の青年と青年運動を知ることには喜ばしい義務であらう。それはわが國の新しい認識を目指して來朝するドイツ青年への儀禮であると共に大國民として誇るべき襟度でもあらう。

勿論ナチスの青年運動がそのまゝわが國の青年運動に當敵る譯ではない。併し古くから「青年運動の國」と言はれてゐるドイツにおける青年運動團體を正しく知ることとは他山の石として自らを磨くに役立たう。そのためわれ々はヒトラー・ユーゲンツの現状を見、その足跡を辿り、現在のドイツ青年の父祖が大戦當時何のやうに戦つたかを學び、更にアルバイツ・デーインストについても概観した。

國民總動員の呼聲は未來を擔ふ青年において最も高くななくてはならない。新日本建設の躍動譜は青年の熱情のうちにこそ聞くことが出来るであらう。否、すでにわれわれはその力強い登音を聞いてゐると言ふことが出来る。

昭和十三年（一九三八年）初夏

一 ハイラル・ヒトラー

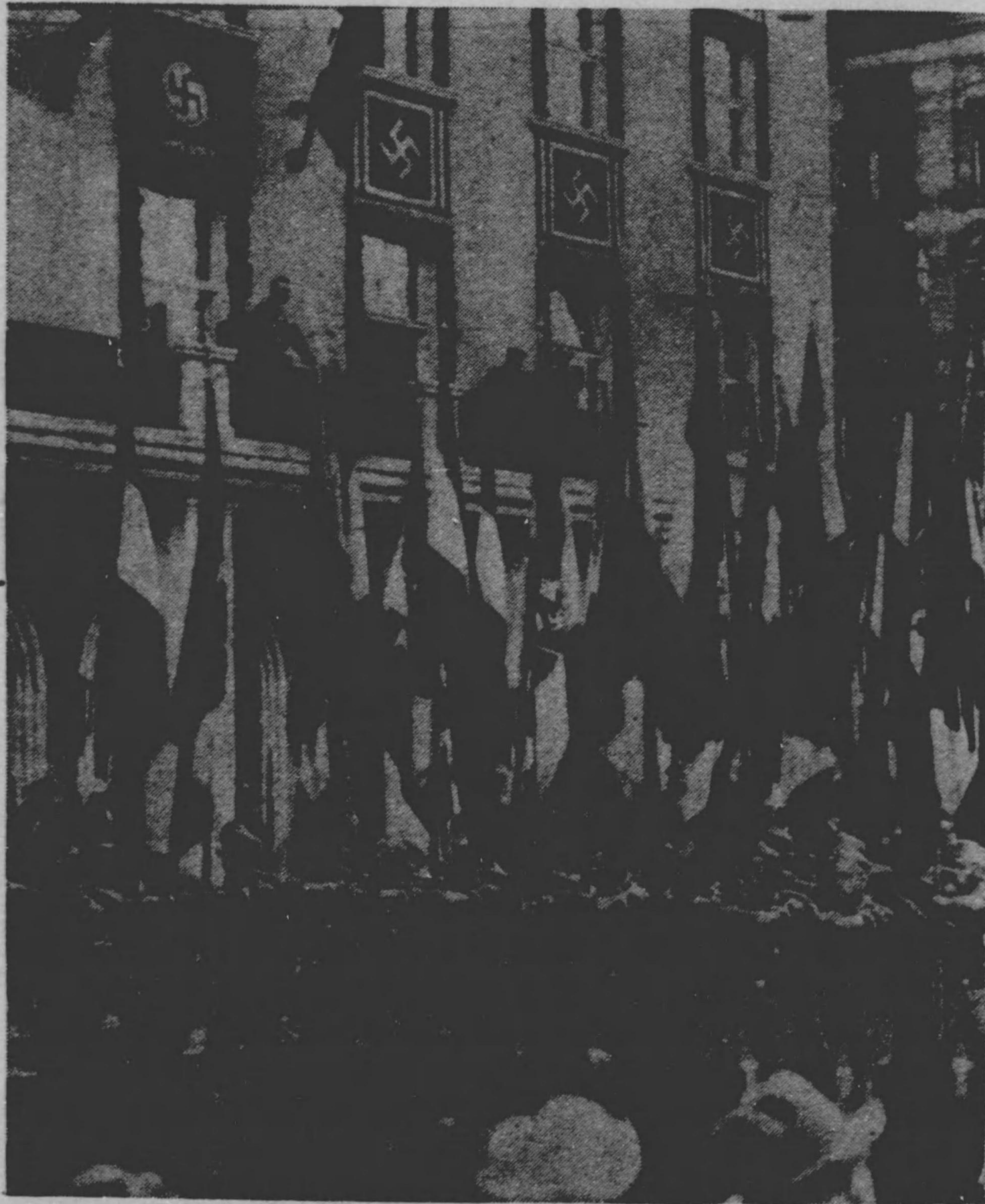
總統に集まる青年の敬愛

ヒトラー・ユーゲントはナチス獨逸の總統であり聯邦總理大臣であるアドルフ・ヒトラーの名を頂いてゐる。ヒトラー・ユーゲントを語る場合、現代のドイツ青年がヒトラー總統に對する畏敬と愛慕の如何に大きいかを忘れてはならない。ヒトラー・ユーゲントの現團長シーラツハは總統に呼びかけてゐる。

數百萬の青年が閣下を要望し、すべてが閣下の下に集まりました、閣下よりも強力なものがたゞ一つありません、それは、總統よ！ 若きドイツの閣下に對する愛であります。

昨年秋のニールンベルグ労働者大會においてドイツ國內の失業者總數は五十萬を割り戦前の状態にまで低下したと報告されてゐる。

戦争の慘禍と戦後の疲弊のどん底に沈り込んでゐた國民がヒトラーの出現を救世主の如くに迎へ、彼の闘争を全國民が歡呼をもつて迎へたのも當然であらう。ハイラル・ヒトラーの叫びにはか



ヒトラーの総統視閲

ナチス大会に於ける分列進行

かる國民の歡喜が表現されてゐるのである。當日、本大會に豪雨をついて集まつた數十萬のヒトラー・ユーダントを前に總統は感激に満ちて叫んだ。

“我が青年男女よ！ かゝる荒天をドイツは十五年の永きにわたつて持ち續けたのである。余等のこの運動にも十年以上太陽の恵みが與へられなかつた。それはつひにはドイツの上に太陽が輝くであらうといふ希望のみが勝利を約束した永い運動であつた。しかも見よ！ 太陽はつひに輝いたのだ！ 今日太陽が諸君等の上に笑はないのも良しとしよう。何となれば余等は青年を單に太陽の日にはかりでなくまた嵐の日の爲にも教育したいからである”

急さんのやうな拍手とますます高まるハイルの叫びのうちにヒトラーは續ける。

“諸君らとともに我が民族の教育の連鎖の環は始まる。そしてそれはドイツが墓場に落ち行く時にもみ終るであらう。ドイツの歴史において精神と意志と指導とがかくも見事な内的統一にもたらされた時代はなかつた。われ々の父祖は永い間その時を熱望し續けたのであつたしかしわれ々こそ完成の最も幸福なるあかしである。實に余は諸君のうちにこそ數世紀にわたる夢の美しい實現を見るのである”

二 創生時代

生みの親グルーパー

ヒトラーが未だ苦難の渦中にあつて獄舎を捨てたばかりの憔悴の身を挺して黨の再建に着手した翌年に當る一九二六年夏、ヒトラー・ユーゲントは司法官クルト・グルーパーを最初の指導者として結成された。勿論それまでには十數年に亘る永い準備の時代が必要であつたといへる。しかし兎に角『ヒトラー・ユーゲント』といふ名が青年運動に用ひられたのは同年の初めユリウス・シュトライヒヤーによつて同年七月の黨大會においてヒトラー・ユーゲントはグルーパーを指揮者として最初の編成を見た。この運動の發祥の地はザクセンの工業都市ブラウエンであり、ここで一九二五年グルーパー氏によつて工場の青年労働者を主力として興された『大ドイツ青年運動』が實を結んだものといへよう。國民社會主義運動の掩護役を勤めた『突撃隊』の下に屬することは従來の通りであつたが、この年以來ヒトラー・ユーゲントは独自の價値を認められる

やうになり一九二九年八月四日開會された全國黨大會において二千人の團員は始めてアドルフ・ヒトラーの前を行進して歩武堂々若きドイツの頼母しさを印象せしめたのである。しかもその後ヒトラー・ユーゲントのかん難の途は長く一九三三年一月國民社會主義政府の樹立するまで彼等は迫害と不遇の嵐と戦はねばならなかつた。司法官グルーパー氏が生みの親とすればヒトラー・ユーゲントの育ての親はフォン・シーラッハ氏で、一九三一年一月『全國青少年統帥』に任命されたこの白面の一青年は、翌一九三二年六月には『ドイツ國青少年指導統帥』の榮位につき僅かに二十六歳の青年が事實上の大臣として青少年指導組織の大任を帯びたのである。この年はこの青年運動にとつて實り多い一年で年初百萬であつた團員は一躍三百萬人に増加し、九月ニユールンベルグで行はれた『勝利の黨大會』には六萬の青少年がデモンストレーションの行進を行つてナチスの勝利が同時にヒトラー・ユーゲントの勝利であることを高揚した。現在においてドイツの九十八%の青少年がこれに入團し團員實に八百萬を突破、十歳から十八歳に至る全ドイツ青少年のほとんど全部を包括してゐるといへよう。初めナチスの實現を求める闘争に向けられた彼等の活動は今や新國家内の青少年自身の生活の建設に向けられ、多くのドイツ青少年はド

イツ國家を對象とする全國民的生活以外にはほとんど自己の生活を持たないのである。

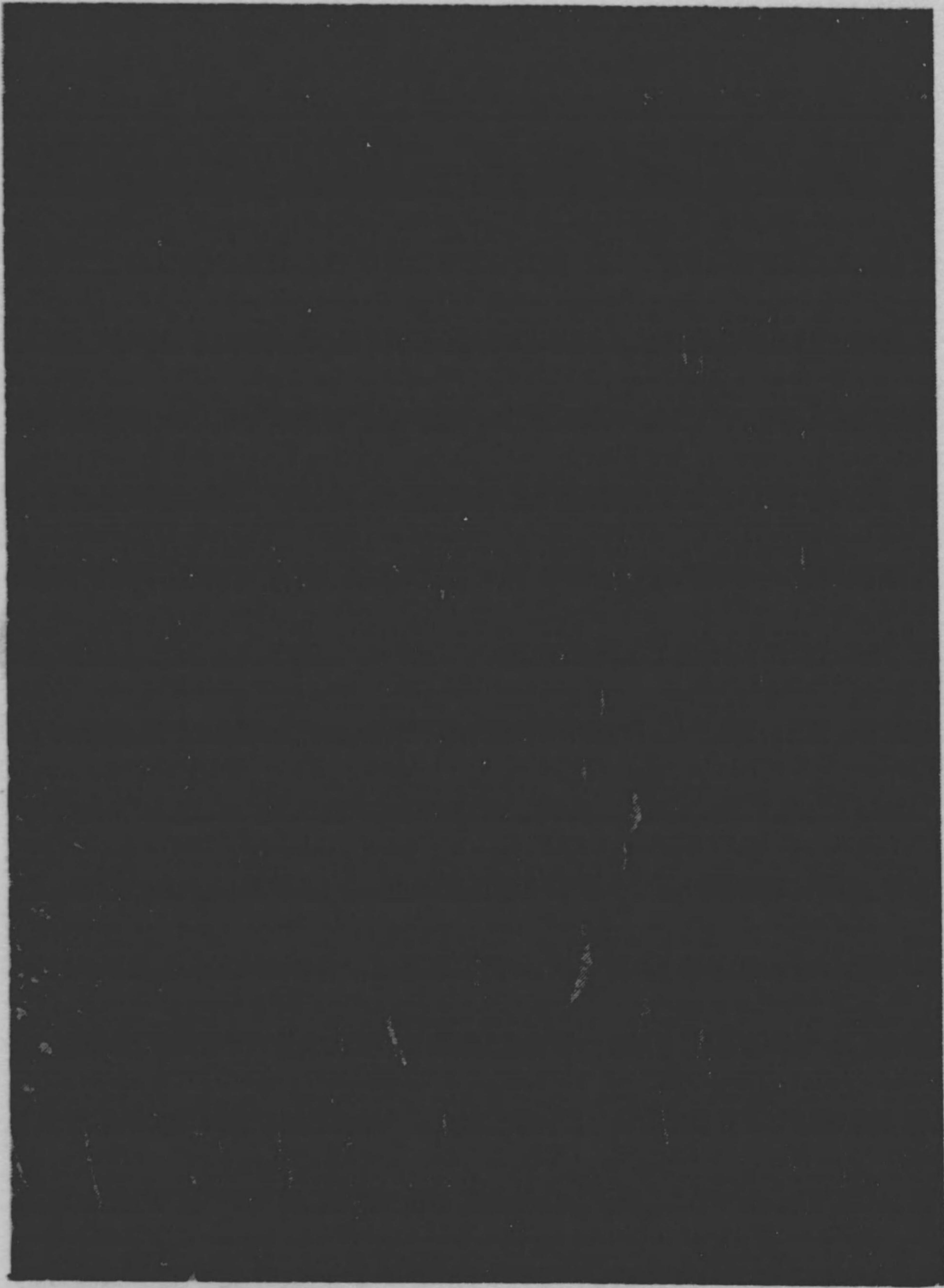
三 發展時代

育ての親シーラッハ

ヒトラー・ユーゲントは三十年にわたるドイツ青年運動の結實であつてそこには新しい生活建設の熱意に燃える全青年の熱と力とが結實してゐるといはねばならぬが、現在の如き整然とした組織を構築した直接の功績者は現青年團長バルドゥール・フォン・シーラッハである、ヒトラー・ユーゲントの生みの親であつたクルト・グルバー氏は生來健康の勝れない人であつたので一九三一年十月黨中央部の青少年委員會に退いた。その後を襲つて『全國青少年統帥』に任命されたのがフォン・シーラッハである。當時青年團は『突撃隊』に屬してゐたのでシーラッハは同時に突撃隊の群指揮官でもあつた。三十三年二十六歳で青少年統帥となつた彼はヒトラーの片腕となつて今日の如き豪華けんらんなヒトラー・ユーゲントの大集團を作り上げたのである。

シーラッハは詩人的なりん質に恵まれた熱情的な青年團長である。彼はワイマール宮廷劇場の總監督を父として生れ祖父は一代の名優であつたといふ。國民社會主義學生同盟がドイツの大學に據頭してかつてのマルクス學生を驅逐し始めた頃、彼はミュンヘン大學の史學科に籍を置いてゐた。二十歳の彼はナチの運動に投じ果敢な突撃隊員として早くもヒトラーの囑望を受けた。一九二八年以來學校におけるナチス運動の指導と建設を委任され、ナチス學生聯盟は彼の指導の下にはうばいとして全國民的に擴がつて行つた。

當時グリニューパーはヒトラー・ユーゲントの團長でシーラッハはしばしばともに會談してナチスの世界の到來を夢見てゐた。青少年の指導者となつてからの彼は全國を遊説して青年に團結の必要を訴へたが、かつて戦線詩集を出版したこともあり意氣と感激に富む彼の熱辯は若人の琴線に觸れるものがあつた。當時苦難の途をたどつてゐた青年團運動のためには今を時めくこの團長もあるひは鐵拳の下をくゞりあるひは礫の雨を浴びて演説會場に姿を現さねばならなかつた。やつと見つけた一臺の自動車にガソリンも切れてゐたといふ悲惨な試練の數々は彼の闘志を鍛へて行くばかりであつた。しかし涙ぐましい彼のこの活躍によつて團員は三十一年の年末三萬五千に



ヒラトユーゲートン大会

まで増加し三十二年には突撃隊の指揮下から離れて青年は青年だけの統制と組織を得ることが出来るに至つた。同年四月解散の苦い経験を超えてフォン・レンテルンの率ゐる生徒聯盟を合流した團は團員十萬を突破するに至り、従来「群團」と「管區」に分れてゐた組織が「域」と「團」の組織に変更された。

四 ポツダムの日

“にも拘らず”の獨逸魂

フォン・シーラッハは十萬の團員全部を召集する大集會を開きたいと計畫し禁止令のほどばかり未ださめぬ一九三二年十月一日ベルリンの西南ポツダム市においてその大會を決行した。これがいよいよ「ポツダムの日」である。現地には大テント村が設備された。七、八萬は集まるだらうと豪語するシーラッハの言を分別臭い人々は一気に附して多く問題にする者もなかつたが、いよ／＼その朝を迎へると見よ！ 東から、西から……ハーケン・クロイツの旗を求め若人は怒

溝の如く會場に雪崩れ込んで来た。その數男女合せて十萬、彼等は狭いテントの下にひしめき合ひながら總統の臨場を待った。夜に入るや會場を照らす數千の、かゞり火はあか／＼とちやう天をこがすかに思はれ、ハイル・ヒトラーの歡呼は鳴りも止まなかつた。一夜を露營の夢に明かした團員らは、翌二日ガルニソン教會前廣場に立つたヒトラー總統の前を過ぎて壯大な分列行進を行つた。總統は七時間半の永い間擧手の禮をなし續けたまゝ立通して、堂々大地を制壓する十萬の若人の行進を見送つた、團長フオン・シーラツハはもとより感激の最高調に押し上げられて男泣きに泣いた。ナチスの黨員が『ワイマール政府は銃劍を有するがわれ／＼は青年を有する』と叫んだのはこの時であり、ヒトラーが宰相の印綬を帯びたのは翌三十三年の一月三十日であつた。

このポツダムの日こそヒトラー・ユーダントの運動に新紀元を畫するものであり、ナチスのドイツを今日あらしめた原動力であつた。しかしシーラツハ團長がこの大會を計畫した時人々がその無暴を笑つたのも當然であつた。何となれば黨はその金庫に二百マルクしか藏して居らず、禁止令が下つて間もない時であつたから。しかも哲人ニイチエの『それにも拘らず』のドイツ魂はこの大會を決行せしめた。彼の同僚ナーベルスベルクはこの二百マルクを懐中にしてポツダムに

赴き事務所を借受けプランを練つた。颯々として開拓者の群列を思はせるテント村はシーラツハ等が持物を賣拂つた私費で出来上つたのである。

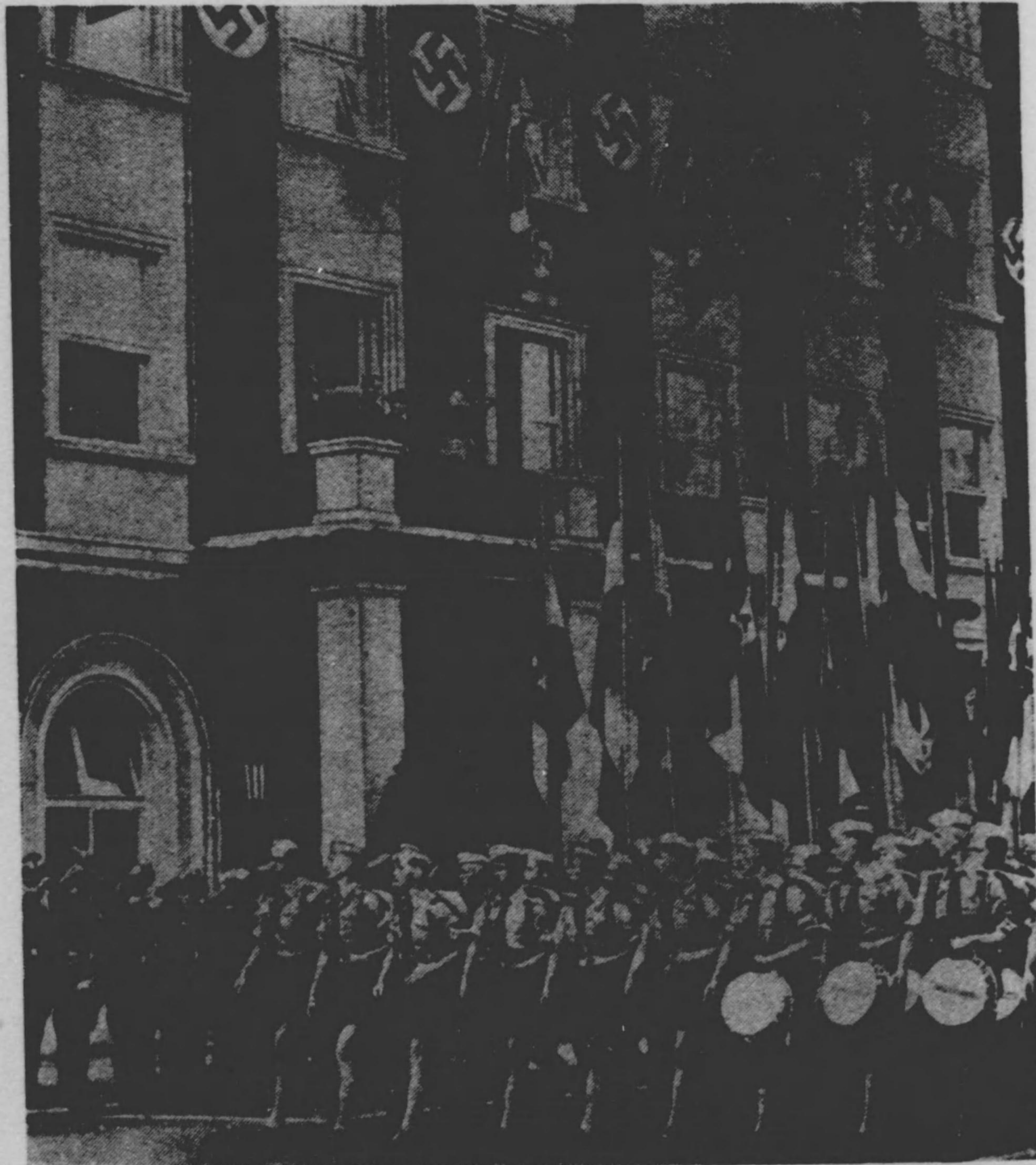
大會の夜ポツダムからライプツヒに至る街道で三キロメートルの長い堵列を作つて待つた若人の胸には新しい世紀への願ひが波打つてゐた。車上の總統は巨大なサーチライトに輝かされたがら金髪と黒髪の青年の限りなく續く群團に迎へられたが、彼もまたこの日の成功を信する第一の人であつた。彼は數千のきよ火と黨旗がゆらぐ仲秋のこの夜十萬の青年を前にして

往時青年にとつてその生活は今日よりも楽しかつたかも知れない、何となればそれは外的喜びをもたらしめたから。しかし今諸君等は若くして國民の運命に關與するといふ法悦にひたつてゐる”

と前置きして一九三二年のドイツ青年運動史に特記するべき名演説を行つた。

五 ヒトラーの演説

感激の七時間半



進行るけおに會大クルペンルユニ

魅力ある演説を續いて譯載して見よう……

“余は知る、諸君等の多くは父親が職もなく街をさまよひ、來週、いな明日、如何なる運命が自分等の家族と両親の家を襲ふかを知らなかつたといふことを。ドイツ民族が今日耐へ忍ばねばならぬ不幸は偶然に起つたのではない。我が國の人々はその大いなる歴史的瞬間において自己自身を忘れたのである。民族は一つならぬものとなつた。徐々に崩壊して無力となりその不合理から失業と飢餓が生じたのである。我が國民をその大なるかん難の時において救助せんとする凡ゆる試みも、それが雲間に漂ふ政府によつて成されドイツ人の民族的偉力より出發しない限り徒爾である……”

かくてドイツ民族の團結を要望し

“青年は何よりもドイツ的に自己を感得することを學ぶのが刻下の急務である”

と叫び

“諸君は來るべき民族であり諸君らの上にわれ／＼が今日そのために戦つてゐるものゝ完成が宿つてゐる。今日理想の價値を無視するドイツ人もあらう。ナチスは併し諸君ら青年を信仰

的な理想主義者に教育する。何となれば大なる理想のみがドイツ民族を再び統一にもたらし得るのである……その大なる理想に仕へるために青年が總てを放棄した民族には何かもたらされるであらう！ わが青年男女よ！ 諸君が今日相共にわが民族の幸福のために努力してゐる同じ瞬間數百萬の壯年男女もまたドイツの解放のために戦つてゐるのである。ナチスは子供から始まつて老人に終る民族の共同社會を作らうとする。ドイツ生活のこの力強い交響樂を何人も阻止することは出来ない。……余はナチス青年運動の中に新しい世代の成長を信じて疑はない……

十月一日のこの夜シーラツハ團長も團員と共にテントの一夜を明した。翌朝總統ヒトラーはテントからテントを廻つて親しく團員を激勵した。正午からたそがれ時まで続いた行進に七時間半の間手を挙げ続け七時間半の間答禮し続けた總統はいま青年を確保したことによつてドイツの未來の運命を負つたことを信じたのである。

六 組織と精神

ドイツ青少年の一つにしてたゞ一つの機關

詳しくその發展史をたづねる前に我々は先づヒトラー・ユーゲントの組織を概観して置きたいと思ふ——

その組織は世界觀の形態である。

ヒトラーハ團長はいつてゐる。従つて組織は最も明白にヒトラー・ユーゲントの抱負を表現してゐる。それは三つの大きな團體の三位一體であつて『少年團（ユンク・フォルク）』『ヒトラー・ユーゲント』および『ドイツ女子青年團』の三つから構成されてゐる。少年團は十歳から十四歳までの子供、ヒトラー・ユーゲントは十四歳から十八歳までの青年を包括し全ヒトラー・ユーゲントの中核をなしてゐる。またドイツ女子青年團は少女部と女子青年部に分れ前者は十歳乃至十四歳、後者は十四歳乃至二十一歳の少女、女子青年を團員に持つてゐる。全團は東、北、中、南、西といふ五箇の『上級域』に分れ各上級域は四乃至五の『域』に分れてゐる。各域は三乃至五の『上級團』に分れ、各上級團は平均六つの『團』から成つてゐる。この團は更に數個の『下級團』に分れ、

下級團は「班」に分れ一班は約百六十の團員を有してゐる。班は細かい分班に分れてゐるが最も小さい小班を十團員から成る「組」と呼んでゐる。各單位には一名の指揮者がありその隊は指揮者の獨裁にゆだねられてゐる。この指揮者に對しては

一、強ち團員よりも肉體的に強いことを要しないが、性格的にまた精神的に單位中最強の者でなくてはならぬ。

一、彼は絶對的な命令權を持つてゐるが同時に無限の責任を持つてゐる。

一、彼は決して私人ではなく完全なる國民社會主義的生活をなす責任がある。

等の注意が與へられてゐる。このヒトラー・ユーゲントの組織はドイツ青年の一にして唯一つの機關である。それは青年の全體的な要求を具現してゐる。ドイツ國がナチス唯一黨となつたやうにドイツ青年の組織は唯一つヒトラー・ユーゲントとなつた。ヒトラー・ユーゲントに入團することによつてのみドイツの青年は國家の一員として認められることが出来るのである。この意味でヒトラー・ユーゲントはイタリアのベリラ運動やハンガリーのレペンテ運動と區別される。

「ヒトラー・ユーゲントは青年に對して國家を基礎づけるのではなく國家に對して青年を基

礎づけるのだ。」

といはれてゐる。ヒトラー・ユーゲントは自ら新しい國家の建設に參畫しこの理想を實現するために青年運動の犠牲者廿一名を出したことを誇つてゐる。従つてヒトラー・ユーゲントは消極的に國家から養はれやうと考へて居ず、自ら國家を養はうとする積極性に燃えてゐる。團員は國の掩護下に立つよりは自ら國の護りとなることをスローガンとしてゐる。團員の募集に當つてもナチスは青年を強制しないことを立前にしてゐる。自由意思でこの運動に入つた者のみが運動を強力にし得るのだから數百萬の團員を數へる今日なほ

「決定的なものは數や群衆ではなく個々人の闘争力である。」

と喝破してゐるのはシーラツハ團長の一卓見であらう。青年こそ未來のドイツを築くものである。ヒトラー總統もこの故に青年團にも政治運動を奨励した。ドイツ現在の青年團は官僚の作つたものではなく、青年自身の國家意識が生んだものである。ナチスの國家觀念はヒトラー・ユーゲントの組織において具體的な現れを見出してゐる。それは小我を滅した青年の堅い團結であり、青年は團員となつて初めて國家に對する義務を果すことが出来るのである。

(一) ドイツ少年團

玩具屋泣かせのドイツ少年

ドイツの新しい少年は玩具屋を泣かせてゐるといふ。彼等の興味は専らキャンプ張りや槍投げや羅針盤や地圖に移つてしまつたからだ。彼等はドイツ少年團に加入したからである。團旗をひるがへして進むあの壯快な行進に比べればアメリカ原始林の猛獸狩りももの數でない。彼等はいふ。玩具屋と敷きを同じうするもう一つの商人は學帽店だ。青、少年團員は學帽を焼き捨てて戰鬪帽に代へてしまつた。これは彼等の單純なしかし英雄的な哲學であらう。

『ドイツ少年團』はヒトラー・ユーゲントの一組織である。少年團は狹義のヒトラー・ユーゲント(青年團)と車の兩輪をなしてゐるが、その仕事ではヒトラー・ユーゲントとは異なる獨自のものを持つてゐる。これは年齢から見てもさうなくてはならぬ譯で、少年團は十歳乃至十四歳、青年團は十四歳乃至十八歳といふことに決めてある。即ち大體において少年團の重點は『遊戯』にある。従つて訓練の主力も知識や認識よりもむしろ豊富な『體験』にそゝがれる。子供はいろく

のことを體験して置かなくてはならぬ、だから指揮者も青年團では知力が大事だが、少年團では子供の本性を知悉することが大事だといはれてゐる。ヒトラー・ユーゲントの創立期には少年團がいたいけな子供に政治思想を吹き込むことを攻撃されたものだ。少年團員が最も若い世紀のドイツとして國家の發展に努めてゐるといふ意味では彼等は政治的だといへる。しかし

“それは政黨政派的な意味で政治的ではなく、ギリシヤのいはゆる“ポリティア”の意味で政治的なのだ。”

ヒトラーの首脳部は辯明してゐる。戰前當時にくらべてドイツの少年達は何といふ變化を見たことであらう、彼等こそ新しい時代と共に生れて新しい時代を生きる明日のドイツなのだ。昔彼等を呼ぶのに用ひられた『子供』といふ言葉を今のドイツの少年は輕蔑してゐる。彼等はもう昔の子供ではない。團體合宿も街頭行進も知らなかつた昔の子供ではない。彼等は少年團の一員として『ピンプフェ』となつた事を誇つてゐるのである。といつても彼等は大人の眞似をしてゐる譯ではない。彼等はたゞ古い子供靴を脱ぎ捨ててゝいまテントはどうして張るか、鍋にはどうしてスープを作るか、馬鈴薯はどうしてむくか等を知つたに過ぎない。だがそれだけで彼等はもう世の中を

幾らか知つたのだ。昔の『子供』がマ、の膝を求めて泣いてゐたと思へば、けふの『ピンブフエ』は獨立の首途に立つてゐる。昔は子供を小型の大人と考へたがつたもので、七つの男の子供にフロツク・コートを着せたり、ちつちやな女の子供に夜會服を着せたりすることが流行してゐた。今でもドイツの見え坊に短いズボンをいやがる傾向が残つてゐる。だが少年團の服装は絶対に短いズボンの少年服に決まつてゐる。ドイツの風習には我が國の元服に似た『座・信・禮』といふ洗禮の儀式があつて、それが済むと、きのふの子供は一躍大人になつた。學校の先生まで「お前」といつたのを「君」と改める風習だつた。昔の青少年は早く大人になりたがつてビールを飲み煙草を喫ひダンス場に出掛けたものだ。しかし今やヒトラー・ユーゲントの共同體では青年には青年の、少年には少年の獨自の意識を與へようとする。青少年の時代は短くするにはあまりに美しい。こゝでは十八歳になるまで青年は青年であつて『偽裝の大人』であつてはならぬ。少年團も大體青年團と同様の組織になつてをり最少單位の少年班は十名のピンブフエを有してゐる。十四歳まで少年團の訓練を受けたピンブフエはヒトラー・ユーゲントに入團して青年となる。しかし彼等が依然として若い者であるに變りはない。



年少ツイドルめ動を事炊て地營野

(二) ヒトラー・ユーゲント

血で闘つた團史

掲げよ高くわれらの團旗！しつかりと組めわれらの伍列！ 突撃隊は堂々と
行進する 赤色と反動のために殺された僚友らの魂はわれらと共に行進する
今もドイツの國民歌として愛唱されるこの歌は若冠二十二歳をもつて國民社會主義運動のた
めに殉じたホルスト・ウエツセルの残したものだ。

運動の苦難時代には疾風と怒濤が相次で青年團をも襲ひベルリンの青年團だけでも五名の
犠牲者を出した。ヘルバート・ノルクス少年の壯絶な死の記録の如きはヒトラー・ユーゲントの
シンボルとして全ドイツ青少年の敬仰を受けてゐる。彼等は「不死の僚友」として生ける團員と
共に今も行進してゐると彼等は信する。血をもつて戦はれたヒトラー・ユーゲントのこの統一こ
そ尊い傳統としてドイツ青年の襟を正させるものである。この闘争に輝く歴史はヒトラー・ユー
ゲントの意識であり世界觀であり團員の英雄的な態度である。少年で遊戯やスポーツを主とした

訓練を受けたドイツの少年は十五回目の誕生を迎へると共にヒトラー・ユーゲントの中核をなす
青年團に移るのである。同時に彼等は遊戯の世界を去つて奉仕といふより眞剣な訓練を始める。
ヒトラー・ユーゲントを非難する人はその團體訓練が「兵隊遊び」や「軍隊の眞似」に過ぎない
いことを指摘するのが常である。しかし兵隊遊びでないことは主義のために幾多の尊い血が流さ
れてゐることによつてわからう。彼等が軍隊の模はうをやつてゐるに過ぎないのではない證據
には彼等は獨特の世界觀を持つてゐる。往時の國民社會黨の護衛隊が抱いてゐたやうな政治的軍
規こそその目的である。しかし義務の觀念、勇敢さ及び小我を捨て、共同社會の福利に生きる
といふ精神においてはあくまで軍人的である。ヒトラー・ユーゲントの本質は示威運動や街頭行
進にあるのではない。集會の夕や野營生活さへも新しい青年教育の理想を現してはゐない。むし
ろその眞髓は靜かな勞作のうちに、國家から與へられた大きな問題を解決して行くところにある
のである。

彼等は農村に赴いて大きな力となつてゐる。しかも彼等は巷の失業都會人のやうに團結のない
ものではなく大地において根源的に結ばれた僚友である。彼等は實社會に出てゐる。「沒我的な奉

「仕」はヒトラー・ユーゲントの合言葉である。彼等は保健運動に、保護施設に、農村、工場の労働にあらゆる方面には入つて行つて暖かい友情や青春の美しい思ひ出の數々を養ふのである。この青年團の生活において民族全體に對する理解も得られ今のドイツに生きる若者の使命も分るのである。従つて青年團の指揮者は觀念的な熱狂ではなくして内的情熱を藏したくましさを求めようとする。運命に打ちひしがれた隣人への助力は施しにあるのではなくてヒトラー・ユーゲントのみが與へ得る「僚友の觀念」にあると彼等は考へる。ヒトラー・ユーゲントの團員は商人であり職工であり八割までは職業に従事してゐる青年である。従つて團は名稱のみの死物ではなくドイツの現在そのものから生れ出た一大共同社會であり現在の課題を解くことによつて未來に仕へるのである。

(三) ドイツ女子青年團

讚へよ健全な母性!

「女子青年もまた男子青年と同じ見地から教育しなくてはならない。女子においてもまた重點

は何よりも體育になくはならぬ。體育を終つてのち心的な價值、精神的な價值に目を開けさせるのが至當であらう」

といふヒトラー總統の指導精神は「ドイツ女子青年團(ペー・デー・エム)を貫いてゐる。國人の愛するドイツは男子からばかり出來てゐるのではなく女子をも含めた民族から成立するのである。故に「ドイツ女子青年團」は「廣義のヒトラー・ユーゲント」の有力な一組織であつて根本的な意義や指導原理は青年團と同じである。故に男子青年團員は女子青年團を常に尊敬の目をもつて見よとくれぐれも教へられてゐる。義務の愛好と没我の奉仕が強調される意味では共に同じだがたゞ「男子には力を、女子には美を」といふ相違があるだけである。しかも飾つた外的な美が求められるのではなく飽くまで内的な美、健全な身體に宿つた健全な精神の美が求められるのである。

國民詩人シルレルの讚へたすく／＼と伸びる植物の生長の美しさこそ新しいドイツ女子青年の理想でなくてはならぬ「ペー・デー・エム」に入團したものは舞踏や歌を捨て、しまふ必要はない。たゞ個人的な自己満足に走るのを捨て、遊びにおいても共同團體の總體意志、總體目的に有

機動的な關聯を持たなくてはならない。女子青年も合宿所や作業場や労働奉仕の生活を送る。この場合乙女等は何時も朗かに快活に喜々としながら團體生活に馴れて行くやうになつてゐる。贅澤と放縱を去つてドイツ民族團結の意識を強くするのが團體生活の眞髓である。

『ドイツ女子青年團』は十歳から二十一歳までの團員によつて組織される。十歳になつたドイツの少女はヒトラー總統の誕生日である四月二十日を期して入團することになつてゐる。青年團が十八歳で終るのに女子の方が二十一歳と長くなつてゐるのは女子には兵役の義務がないからである。二十一歳以上の女子は黨の女子部に編入される。女子青年團と男子青年團が分割された理由の一つは男女の體質的な相違にもあつた。満十五歳になつてヒトラー・ユーゲントに入團した男と十五歳の女子團員とをくらぶれば女子は早くもひとことならんとしてゐるに對し男子は全くの子供であらう。故に同じく『ベー・デー・エム』の内部でも年齢に應じて二組織に分つてゐる。特に女子は健康第一を信條としてゐる結果、女子青年團の訓練の三分の二は體育にあてられ、残りの三分の一の時間で新しい民族國家主義的な世界觀が養はれる。従つてドイツ女子青年團では他に比を見ない程スポーツが盛んだ。一九三四年九月二十三日初めて全國的なスポーツ・デー



食會いし樂の年青子女

てに舍旅年青の畔湖ンリベルエウ

が定められて以来、例年けん爛無比な大會が各所に催される。女子青年の體位向上はこれによつて目に見えて著しいといふ。

七 團體訓練の三大事業

“すべてはわが獨逸のために！”

ナチスのドイツは自由主義を排撃することにも個人主義を輕蔑する。大戰後苦難の道を行くドイツを救ふものはたゞ國民社會主義の思想のみである。信するヒトラーは民族團結のための新思想を國民の各層に徹底させようとする。青少年もまた小さい自我の殻を破つて公共のために生きなくてはならぬ。 “すべてはわがドイツのために！”……國家と民族のために殉ずる尊いこの犠牲的精神を養ひ私利を捨て、公益を、孤獨を去つて友愛を求め、僚友觀念を養ふためにヒトラー・ユーダントは如何なる團體的事業を行つてゐるか、「ハイムの夕」「野營」「旅舎」の三大事業がこれである。

ハイムの夕

團員が一堂に集まつて楽しい夕べを過ごさうといふ集會で會談、講演、讀書、輪講、合唱等が團員の友愛を堅め知識を養ふために行はれる。しかしそれは飽くまで打解けた楽しいものでなくてはならず人数は十名乃至四十名で、ハイムは團が任意に選擇した家が自由に選ばれる。普通各分團毎に一週二回位になつてをりそのうち一回は遊戯の夕べ、一回はスポーツの夕べと名付けられてゐる。また一箇月の日曜二回を選んでハイムを根據地にしたハイキングが催される。「ハイム」は同時に慕はしい「故郷」でなくてはならぬ。

野營

風光明媚な山野を選んで大自然の懷で行はれるキャンプ生活である。團員の最も楽しい行事の一つだ。十歳のいたいけな少年團員もまた母の膝下を離れて山間に同じ年頃の少年と一つ釜の飯を食ふのである。青年にとつても月明の夜友と共にドイツの未來を論ずるといふのは何といふ大きな歡喜であらう……彼等の野營生活は山の高きに、森の靜まにハイクして——テントを張る事から開始する。夕方の日課は五時野營地近傍の景勝地に集つて先輩の講演を聞きコーラスの會

を行ふ。同六時野營遊戯、餘興等に興ずる。同七時夕食をさるといふことになつてゐる。夕後後は午後八時から篝火の集ひ、これは篝火を中心に團員が圓座を作つて簡単な野外劇、講演、餘興などを行ふのである。その間一時間半、九時半になると野營地に掲げた團旗を降り同十時には各自のテントに歸るのである。朝は午前六時半起床、同三十五分朝の體操、八時奏樂裡に團旗掲揚、同十五分朝食、同九時點呼を行ひ同三十分制服を着用して野外訓練を行ふ。午後は零時半唱歌の練習、一時晝食、一時四十分から晝休み三時まで自由行動で兩親や友人への手紙を書くも團員と語るも晝寝をするも自由である。三時から團體競技が始まり野外のスポーツは五時までのこの時間に行はれる。

以上はスケヂュールの一例であるが、かういふ風に時間正確に順序よく行はれることにはどの野營生活も變りはない。この間に演ぜられる唱歌や劇はヒトラー・ユーゲントの本部で選擇した専門家の作詞、作曲になるものが多く、新しい民族文學はこゝから生れようさへいはれてゐる。

青年旅舎

ハイムの夕べと野營生活が移動的であつたのにくらべこれは固定的な青年の共用宿泊所では

トラ・ユーゲントが最も誇りとする施設である。ドイツの青年はこの旅舎から旅舎を泊り歩くことによつて最も經濟的に國內を遍歴して祖國の全貌を知ることが出来る。

八 青年旅舎の利用

漂泊の思ひを醫し故國を知る

ドイツ「青年旅舎」の屋上にはヒトラー・ユーゲントの團旗がひるがへつてゐる、ドイツの青少年にとつて「青年旅舎」は若者の聖なる母國に對する忠誠の根據地である

現在ドイツには二千を越す「青年旅舎」があるが、若者は宿から宿へ旅することによつて彼國の父祖を流れる血となつてゐる漂泊の心を満すことが出来る。浪漫詩人アイヒェンドルフなどに最も特色的に現れてゐるバガボンドの喜びは近代の切實さを以てヘルマン・ヘッセなどの現代作家に傳へられてゐるが、ヒトラー・ユーゲントが自由主義的なワンダーフォーゲルの政治的なナチス的な様態であるやうに「青年旅舎」はドイツ人の血を流れる漂泊への思慕をいはゞ正

統派的に満たさせる機關であるといへよう。従つて黨では將來の旅舎はドイツ青年の文化的教養の場所ではなくてはならぬと主張する。旅舎はヒトラー・ユーゲントの生活の態度と意欲をぢかに現してゐなくてはならない。

國を知り友を見出し漂泊の思ひを醫すといふこと以上に重要な意味が「青年旅舎」にはある。戦後頽廢への一途をたどつて來た青年の環境を明朗化しなくてはならない。映畫やカフェーだけが慰安の場所ではない。いやそれ等よりも立派で美しく、しかも低廉な場所がある。それは「青年旅舎」だ。どんなに貧しい者でもこの宿舎に行つて友と語り文化を享受し自分等の母國を知ることが出来る。昔のドイツの學生は遍歴と旅行によつて見知らぬ世界への認識をひろめ、職人もまた旅によつて腕をみがいたが、彼等はそのために並々ならぬ苦勞をなめた。今のドイツの青少年は高いホテル料を支拂はなくても故國の隅々までも旅することが出来る。僅かの宿泊料を留意して行けば美しい旅舎を利用出来、自國の名所と舊蹟に杖を引るのである。若い間にかうした國家の全貌を知ることの出來た青年はカフェーや喫茶店のテーブルとサービス・ガールを眺め暮らして來た青白い青年よりも物の見方が廣くなり、長じては政治的にも正しい見解を得ること

だらう。

獨逸青年の國內遍歴は十一世紀頃から盛んであつた。彼等はやみ難い漂泊の思ひにかられて浮雲に身をゆだねたのである。一八八五年にギユイドー・ロツテといふ人がボヘミヤに「生徒と學生の旅舎」を設立してゐる。これは一九一三年度には四百箇所に設立され約十萬名の學生宿泊者を數へる様になつた。小學兒童もこの恩典に参加してやりたいと教師のシルマンが一九一〇年初めてザウエルラントに小學生用の旅舎を設立した。戦後シルマンはこの運動を發展させ「ドイツ青年旅舎聯盟」を設立し宿舎運動はこれで組織的な形態をとつた。一九一一年度には十七箇所(宿泊者三千名)に過ぎなかつたこの青年旅舎は、一九三一年度には二千三百十九ヶ所(宿泊者四百三十二萬名)に激増してゐる。旅舎事業をヒトラー・ユーゲントの管理下に持つて來たのはシーラツハ現隊長で、彼は一九三三年四月十日「旅舎聯盟」を繼承することになつた。黨の青年指導部には分科「H」といふ旅舎事務専門事務局が設けられヨハネス・ローダツツが主管者となつた。旅舎には専門の常置管理人が任命され經營の方法を苦心することによつて閑散期に備へる對策等が練られた。聯盟から引繼いだ時、團は五百五十マルクの膨大な負債を背負ひ込んだが、そ

れも學校分擔費調達、寄附募集等によつて財政的安定に立直つた。その結果従來一泊三十ペニツヒであつた宿泊料が夏期に限り一九三四年以降二十ペニツヒに引下げられ利用者はますます激増して行つた。宿舍の建築も年と共に改良されハイデルベルヒのデイルスベルグ旅舎などは古い壁を用ひて四圍を石でこしらへた變つたもので最も單純な様式、色彩抜きの簡素な裝飾はダンスホールに出入した往時の青年の胸に嚴肅の感を抱かせるに十分であるといふ。

二千以上の旅舎中唯一つ「浮べる旅舎」としてハンブルグ港に「ハイン・ゴードンウイン號」がある。これは一九三四年同港の知事、市長から寄贈された船で、三本マストの帆船は毎日七百餘の團員を海に鍛へさしてゐる。

ヒトラー・ユードグントの旅舎は歐米各國の模範で、オランダ、スイス、米國等が同様の施設を急いでゐる。また一九三三年にはゴードスベルクにおいて「國際青年旅舎事業協會」が創立されヒトラー・ユードグントのシルマン統帥がその總裁である。この協會の設立によつて旅舎事業は次第に一國的から國際的となり、異國青年の利用法が研究されてゐる。將來のドイツ青年は母國を遍歴し盡くした後加盟國に渡つてその國の事業をも知ることが出来ることゝならう。

九 各國の若人を結ぶ絲

“ 擴げよ！ 地球上に親善の網 ”

“ 青年よ！ 前進せよ！ 平和と躍進に寄與する爲に！ドイツの青年は若者の普遍性を強調し彼等お互を引離す障害を超越することによつて地球上に親善の網を投げつゝある。 ”

一九三五年十月二十七日第一回の世界青年中繼放送が行はれた時ドイツ放送局長ハダモウスキー博士はヒトラー・ユードグントに右の様に呼びかけてゐる。ヒトラー青年男女は人種と國境を超えて世界の至るところ大きな友情を見出さなくてはならない。それは政治的な利害を超えてゐる。地理的差別を超越して人類の幸福と安寧を求め若々しい拘負の實現に邁進することこそ全世界の若人共通の眞精神でなくてはならぬ。ヒトラー・ユードグントもこれにやぶさかでない。ドイツ青年を世界の青年に結びつけるため黨は青年省の一局に外務局を設けてゐる。ヒトラー・ユードグント本年度の問題は「各國との提携」にあることゝて青年の國際的親善と相互の諒解は特に



重要性を帯び外務局は今あわたゞしい活況につままれてゐる。われ／＼は「青年旅舎」の發展が青年を世界的に——特に防共の線に沿うて——結びつけんとしてゐることを見た。彼等はそ
の青年宿舎に投宿することによつて、訪問國に無用な接待費の負擔をかけないでその國の文化を
吸収し非常に有意義な交際の時を送ることが出来るのである。一九三五年にはヒトラー・ユーゲ
ントはハンガリーを訪問し、イタリアのパリラとの間に少年團の交換旅行を試みてゐる。ハン
ブルグでの獨伊兩少年團の合同野營の一週間は如何なる形式的外交も企及出来ない緊密さで兩國
の國際關係に役立った。外國部長カール・ナーベルスベルクは自ら團員を率ゐて英國及びトルコ
を訪問、更にパリに赴いてフランスの青少年團に呼びかけてゐる。逆にフィンランド學生協會の
訪獨を初め各國の青少年團代表はしば／＼ヒトラーの國を訪問して交際を行つてゐる。我國もま
た最近三十名の日本青少年代表を送つて日獨親善の一石を投ぜんとしてゐる。ヒトラー・ユーゲ
ントは國家を通し民族を通して國際的親善に前進する。この意味でオリンピックのモットーとな
つてゐる「世界の青年に呼びかける」といふ精神はドイツ青年のモットーであつて差支へないの
である。他國の精神を理解し文化を攝取するといふ業績ではドイツ程偉大なる民族はなかつた。

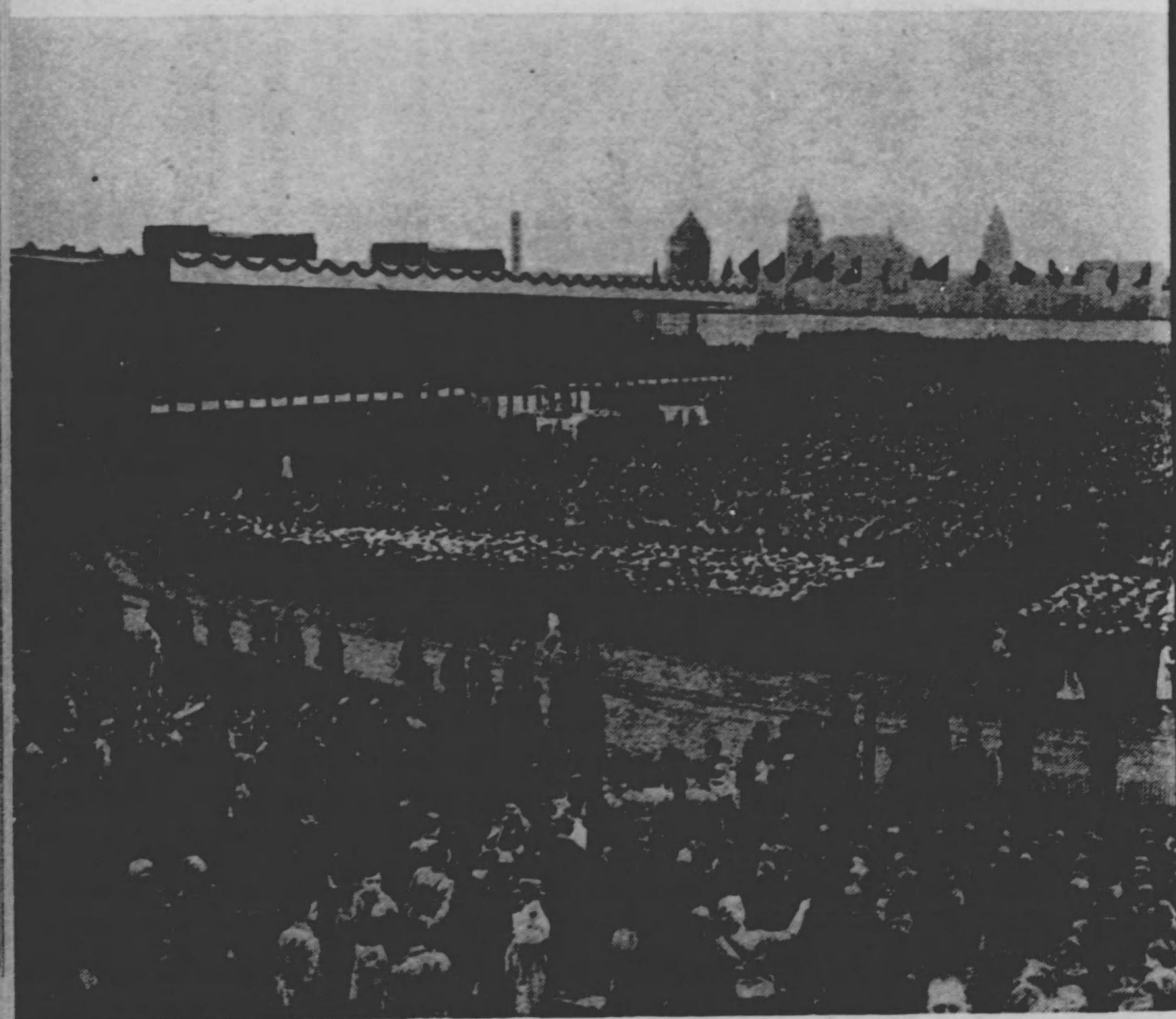
フランス人などがわが國の古い江戸ツ子のやうに自己一國のえこちで踞踏してゐる間にドイツ人
は營々として世界を書物として來たのである。父祖のこの美質はナチスの青年にも受け繼がれて
よいのである。外務局には國外研究のため東亞部をはじめ北米、南米、北歐、西歐、地中海、東
歐の各部がある。青少年の國際親善、學生の交際、勤勞青年の國際的提携等と共に外國にある全
ドイツ人の問題も外務局在外青年部の管掌するところになつてゐる。このためドイツ青年は
しば／＼國境地帯及び外國に居住する自國青年を訪問し、國民歌謡、素人劇、民族舞踊等を樂し
んで文化的理解を高め祖國愛を養ふことになつてゐる。また彼等との間の書簡の交換、共同出
版等の事業を進めるため通信は無料配達の便宜を圖つてゐる。國外にある彼等ドイツ青年もまた
組織ある團體を作つて集團訓練を受け本國に劣らないヒトラー・ユーゲントの一翼であらうと努
力してゐる。

十 スポーツ奨勵

農村人も進んで娘をスポーツ祭へ！

“余は今日、全創造的な思想は既に青年期において根源的に顯れなくてはならぬものと確信する”

かうヒトラー總統は『わが闘争』の中でいつてゐる。青年は政治的意味を超えて新世界觀の創造を企圖しなくてはならぬ。戦後の絶望から若者を救つて新鮮な生活建設の意欲を彼等に與へるには『新しい形態をとつた新しい思想』が必要だ。それは健全な樹木に成熟した太陽の果實でなくてはならぬ。健康なき個人は落伍し、健康なき民は亡びてゐる。純粹にして本質的に健康なもののみ次の世界を支へるのである。健康はドイツ民族の重要な問題である。ヒトラー・ユーゲンツが健康増進に巨大な努力を拂ひつゝあるのも當然であらう。前回に述べた旅舎を利用しての地方旅行奨励も健康ドイツ建設の一助であつたのである。年々ヒトラー・ユーゲンツでは六、七十萬の少年が地方に派遣され、夏季一シーズンの野營生活者は二百萬を超えてゐる。ヒトラー・ユーゲンツの中央事務所には體育局、訓練局、徒歩旅行局を設けて健康の増進を圖つてゐるが、青年指揮者養成學校でも一週間百四十三時間の授業時數中二十七時間を指導者自身の體育にあて、五十一時間を野外運動に割いて剛健な體格の完成に努力してゐる。少年團の指導者の如きは必ず強



ヒトラー・ユーゲンツ聯合大會
海南洋青年團も參加

健全な身體の持主でなくてはならぬと定められてゐる程だ。ヒトラー・ユーゲントは三千名の専門醫師を顧問あるひは囑託として青少年の衛生と防疫に考慮を拂ひ、一例として十四歳未満の少女團員は午後八時には必ず帰宅せねばならぬことになつてゐる。體育局には健康調査部があり團員の健康診断を行ひ、黨の國民保健局は有能な醫學士を動員して青年醫學を研究中である。ヒトラー・ユーゲントの團員は青少年保護災害保險、疾病保險に加入して一朝病氣の場合には貧民といへども萬全の醫療が講ぜられる。この外法律的にも少年職業法、兒童齒牙保護法、少年指導扶助法等が制定されて若い世紀のための病魔に備へる防禦としてゐる。これ等の施設や機關は如何に完備しても消極的なもので積極的に身體を作り體位の向上をはかることこそ第一義であらう。集會も夜營も青年旅舍も更に勞働奉仕も農園奉仕も健康増進といふ重大な意義を持つてゐた。また毎年五月中旬にはヒトラー・ユーゲントの綜合野營演習が舉行され、戰線に赴く將士のやうな困苦と缺乏に堪へてビクともしない頑健を誇り合ふ習慣になつてゐる。七月から八月にかけて一番盛んな野營生活は特に都市の青少年に獎勵されて居り、彼等は炎熱と塵埃のアスファルトを逃れて大自然の空氣を肺臟の奥底まで吸ひ込むのである。

健全な母性謳歌のナチス精神から女性の健康が重視されることは前に述べたが、スポーツ祭には體操、遊戯、舞踊等を行つて體位向上の實績を擧げてゐる。従來ドイツの農村でも我國と同様體育とかスポーツとかいふことは閑却されてゐたが、集團的な體育運動は結局農事作業の能率を擧げてゐる事實に氣づいて、今日では農村の父兄も進んでスポーツ祭に子女を送り出し體育の重大性を認識してゐる。一體ドイツはアメリカ的なスポーツの國ではなかつた。しかも體育を尊重する意味でドイツ人はスポーツ精神を理解し、一九一六年大戦のために開催することの出来なかつたオリンピックを一年前開催して以來は世界有数のスポーツ國として飛躍しヒトラー・ユーゲントも多くの有名選手を送り出してゐる。

十一 鍛練と注意

過勞は健康を破壊する

一つの民族は永遠にその青年によつて若返る——それ故に民族が健全な發展を遂げようとする

ば青年層の體位向上こそ第一の問題である。大戦後ドイツ青年の大部分は不健康と榮養不良に悩んでゐた。ナチスは青年層を立ち直らせることによつてドイツをもう一度立ち上らせねばならなかつた。ヒトラー・ユーゲントが如何に健康増進と衛生に特別の注意を拂つてゐるかをわれ／＼は見たが、健康のためには鍛練と共に過勞が禁物である。殊に少年には。シーラツハ團長は青少年團指導者への細い注意規定を設けてゐる。これはワグナー博士との會議により周到な用意と貴い體験とから制定されたもので、わが國青年團の指導訓練に當つても参考となることと信じる。

ヒトラー青少年團の指揮者は團員健康の保持と増進を最大の義務の一つとしなくてはならぬ。しかしそのため團員を甘へつ子にしてはならぬのでスポーツで鍛へたたくましい青年に仕上げなくてはならぬ。とはいつても過度のスパルタ式教育が青少年團員の年齢に合はない無理を強ひることによつて健康の破壊を招いてはいけない。彼等の體質や年齢を十分に考慮しつゝ、彼等に體力と忍耐力と強じん性を與へるといふことは實にむづかしいことである。少年團の團員は十歳乃至十四歳の少年である。この年頃の少年少女を手離して團に預ける父兄は日夜子供を心配してゐるのだから、指導者は責任をもつて十分注意しなくてはならぬ。しかも兩親が團の指導者に捧げる

信頼こそヒトラー・ユーゲントの教育の基礎でなくてはならぬ。個々の行事や訓練について注意を述べる。

集會 『ハイムの夕』の集會は午後または夕方は行はれるのだが、二時間以上續いてはいけない。そして夕方の場合は七時以後になることを禁ずる。

行軍隊伍 第一班から第二班への距離は少なくとも三メートル位あけて、後續行軍班の先頭は常に先の班と一定の距離を保つやう注意する。一つの班の最後には班長を置き、班長は自分の班の疲勞状況を指揮者に報告する。行軍隊の責任は隊列の最後に續く指揮者にある。

行軍旅程 十歳及び十一歳の『ピンプフェ』(少年團員)には一日十キロメートル以上課してはいけない。十二歳より十四歳の者には十五キロメートル以下、少年團の一日の平均行軍路程は以前は二十キロであつたが十五キロに減少されてゐる。

行軍速力 十一十一歳のピンプフェは一時間四キロメートル以下、十二十四歳の者は四、五キロメートル以下

休憩 一時間行軍すれば十五分休憩する。この時間中は遊戯や教授を禁ぜられる。專

ら休養に當てること。

宿 泊

十一一歳のピンプフェにはキャンプの露營は禁ぜられる。長途の旅行をさせる場合には青年旅舎を利用すること、十二一十四歳のピンプフェはキャンプを利用して差支へない。但しキャンプ露營の場合注意を要することは豫め乾燥した野營地を探して置き、十分の薬を準備する。薬は十二人用のテント一つにつき少くも百乃至百五十ポンド必要である。

夜の休憩

その日の目的地には午後七時までに達すること、キャンプの構築と萬般の用意は遅くとも九時までに終る。少年團員は九時以上の睡眠を採ること。

荷 物

十一一歳のピンプフェの荷物（洗濯道具、洗濯物、食料等）は必ず五ポンド以下たること、十二一十四歳のものは長途の行軍では平均十ポンド、他の荷物は車に積載する。

夜營行事

規則練習は十五分以上をかけたこと、練習日の奉仕は、三時間以下。その間に十五分の休憩が必要。休憩時間に教授等を行はぬこと。降雨の場合には實際の奉仕は中止。俄雨があつた時は指揮者は出来るだけ早く團員を乾燥した根據地へ引揚げさせること。遊戯は三時間の範圍で行ふ。最高五時間まで特別の場合が良いが、その際は特に休養に注意し總計一

時間は與へること。

ス ポ ー ツ

スポーツの時間は二時間以上不可。その間五―十五分間の休養時間を設けること。短距離競走では十一一歳の少年には六十メートル以下、十二一十四歳の者には百メートル以下。長距離では十一一歳は千メートル、十二一十四歳は千五百メートル以下、但し長距離のこの標準は専ら練習用のもので競技に用ひては不可ない。

夜の奉仕

夜警は十乃至十一歳の少年には禁ぜられる。十二一十四歳の者は一夜一時間を超えないこと。夜間行軍は少年團には禁止。

これ等の規則は指導者が嚴守せねばならず犯したものは直ちに罷免させられる程である。

十二 世界大戦とドイツ青年

戦争は一切を變貌する

クレオパトラの鼻の高さは歴史をゆがめたといふが、戦争ほど決定的な轉回をもたらし得なか

つたであらう。

戦争は一切を蹂躪してはなほき然たる巨人の足跡を史上に印して行く。……筆者は學生時代にかういふ話を聞いた。日露戦争が勃發した當時國運を賭したこの一戦に國內には幾多愛國の志士がかけつ起したが、刻々至る第一線の將兵の活躍ぶりを耳にして溢るゝ盡忠の熱血おさへ難かつたか過日長逝した時の一高教授丸山通一氏が眞紅の校旗護國旗を携出して校門に駆け出し「今はおめくゝと勉強してゐる時ではない。ロシアと戦ひたい奴はオレに続け」と六百の向陵健兒を叱りつけたといふのである。當時の丸山教授はまだ三十餘歳の少壯教授であつたらうか、この志願兵募集の擧は校長、同僚教授等に慰撫されてそのままになつたといふことであるが、父子兄弟が戦線に挺身してゐる非常の際に一片止み難い赤情に支配されるのも當然のことであらう。戦争は一切を變貌する。日露戦争はそこまで行かなかつたが世界大戦においては幾多の青年と學生が劍を握り銃を執つて硝煙の間に勇躍したことをわれ／＼は聞いてゐる。最も冷靜なるべき傍觀者さへも「たとへば哲學者エミール・ラスク教授はその懷疑と搖曳の一切を挺して志願兵となりドイツ帝國のために壯烈限りない戦死を遂げてゐる……」

「一九一四年の夏と今日の春との間には永い灰色の年月が横たはつてゐる、我々ドイツ人

はすべてこの二十餘年に亘る歳月を意識的にまたは無意識的に關して來たのである……」

どはシーラツハ團長の述懐である。今日のヨーロッパ人のすべては何等かの切實さを持つて大戦を回顧する。一九一四年は即ち歐洲大戦勃發の年である。その年まだ生れてゐなかつた青年でも大戦を知つてゐることに變りがない。戦争は誰もが知つてゐる。そしてまたドイツ人の存続する限りドイツ人の意識には戦後の二十餘年は拭ひ得ぬ一時代であらう。

「戦争の暗黒の年は過ぎ去つた。しかし戦士の精神は残つてゐる」

のである。ドイツ青年團の成立史は一九一三年ワンダーフオーゲルの運動に遡ることが出来る。しかし二百萬の犠牲者を出した大戦の四箇年と長い／＼戦後の闇黒時代を知らずしてはヒトラーが如何にして一陣の涼風の如くに迎へられたかを理解することは出来ないであらう。一九一四年八月一日までに正しかつたことも一九一八年十一月九日以後には正しからぬものとなつたのである。ヒトラー・ユーダントの現状を見た後吾々はその成立史に遡りたいと思ふが、先づその前にこの歐洲大戦が如何にドイツの青年を動員し、青年の群は如何に勇敢に故國のために戦つたかを

見たいと思ふ……

(一) 青年志願兵募集

四週間にして忽ち二百萬

一九一四年八月一日ドイツは各地に動員令を發した。ドイツの青年は相競うて國難に當らんことを希ひこゝに空前の志願兵のラツシュを現出した。書面によるもの、電話によるもの、自ら役所に出頭するもの、血書して直接高官に採用を敷願するもの、壯丁の動員事務でこつた返してゐた關係官廳ではこの青年の志願者群で一層混雜した。そしてつひに政府はさうくわう布告を發してこの有様を一般に告げ志願兵の募集は締切つたから忍耐してまたの機會を待たれよと命じた。間もなく政府は各種志願兵の用途と採用方法を攻究——地方の官公署、學校及び青年團と緊密な連絡を取りながら秩序整然これらの志願兵を徐々に動員して行つた。健康な青年のほとんどすべては動員された。カソリックもプロテスタントも、小賣人も、富豪も、農夫もインテリも、商人も労働者も、學生も勿論これに参加した。ハイデルベルヒ、マールブルヒ等傳統を誇る大學



團年青子女逸獨る贈を類衣にめたの々人いし貧のアリトスーオ

の象牙の塔を下りて男學生は續々銃をとつて祖國の危難に赴いた。その數は全學生の七八割に上つてゐた。農村も勿論、若者を送り出した。その前年一九一三年十月ホーエン・マイスナーで第一回の組織的會合を開いた「ワンダー・フォーゲル團」も幾多の團員を送り出した。このため宣戰布告後一箇月にして早くもドイツ國は約二百萬の青年志願兵を動員出來たのである。

(二) 青年農事補助隊の活躍

グラランドも芋畑に化す

——マインツの西南附近では農園と田畑が學生々徒や青年團員によつて耕作されてゐる。彼等は良人を戦線に送り出した夫人等の指導の下に數隊に分れて農業に従事し豆、赤ナス、野菜、馬鈴薯等を栽培してゐる。ワンダーフォーゲル運動に屬する女子青年も耕作してゐる。學校の校庭は農園に化した。そして尋常一、二年のいたいな兒童も校庭に出來た田圃で大豆を栽培してゐる。女學生は山林に分け入つて果實を採集し冬期のために貯藏法を講じてゐる。出征軍人の應召によつて生じた勞働力の缺陷は全く銃後の青年によつて完全に補はれて

ゐる……。

これは一九一五年九月開戦一箇年を迎へたドイツ農村の有様を報じた當時の新聞記事である。食糧問題は大戰を通じてドイツの最重要問題であつた。農村は出征者によつて決定的な手不足となつた。青年團隊は青年農事補助隊を編成して應召者の家族に勞働を奉仕したが、戦亂一年にして二百萬に上る青年義勇軍の出勤はつひに小學兒童も農業の助力に動員されねばならなかつた。これがため同年六月カイゼル皇帝は小學校の學童中農村の子弟に對しては農事休暇を與へ、勅語を發して彼等を『農場の戦士』なりと激勵した。各學校はグラランドを田畑とし教師は授業の間に兒童を指導して馬鈴薯、豆等を栽培させたのである。青年はかくして大戰中農事經營の主動力となつたばかりでなく、年少の少年少女は出征軍隊の出發を見送り湯茶を供して父と兄を激勵したのである。

(三) 青年と學生の從軍

ワンダーフォーゲルの一青年も鐵十字の勳章に輝く

青年の選ばれた者は志願兵となつて戦地に赴いてゐる。彼等が全く如何に勇猛果敢な兵力となつたかはドイツ青年史の誇りとするところである。鐵十字の勳章は彼等の墓標を飾つてゐる。學校では教員が出征した。學生々徒も出征した。記録によれば開戦直前總數八萬餘あつた大學生中開戦の一九一四年中に軍人となつた者は實に五萬一千人、約四千の女子大學生中特志看護婦となつたものは約六百人に達してゐる。大哲カントを出したケーニヒスベルヒの大學では學生の八割四分が應召し全國に冠絶した。これがためドイツ軍隊は多數の勇壯にして愛國心強きインテリゲンチヤの大群を擁することが出来たのである。しかも特記すべきことはかくも多數の出動軍人と志願兵を出しながら一、二の特殊學校を除いては開戦以來閉鎖を見た學校が一枚もなく周到なる組織的經營によつてほとんど全部授業を續行、大國の襟度を示したといふことである。

志願兵の涙ぐましい殺到によつて忽ち豫定數の兵員を得た陸軍當局は一九一四年八月二十六日文部、内務兩大臣と連署の下に左のやうな布告を發してゐる。

——我國が國民各自の能力と獻身的精神を要求すべき非常の時期が到來してゐる。十六歳以上徴兵適齡（二十歳）に至るまでの青年は一旦緩急あれば軍事上の補助勤務と勞役作業に

従事する必要がある。また他は兵役に服する場合の用意にも特別の軍事教練が必要であらう。將來各都市または町村の青年團では軍事教育を行ふべきである。從來青年團に加入してゐなかつた青年もこの際奮つて入團し軍事豫備教育を受けて置くのは祖國に對する光榮ある義務である。

青年層に對する軍事教育はかくて眞劍味を帯び、越えて翌年には法律をもつて強制する事になつた。彼等はかくして嚴格な規律の下に軍事教練を受けると共に第一線に赴けぬ者は國內の警戒勤務に當つて事實上の青年警察を組織したり、戦地に赴いて彈藥の運送、飲料水の供給等軍務の補助勤務に當つた。ワンダーフォーゲルの一青年は、硝煙彈雨の間に挺身して散兵壕に彈丸供給の重大任務を遂行したため銃をこらしめて鐵十字の勳章を受けたと傳へられてゐる。戦亂の四年間におけるドイツ壯丁の戦死者百六十一萬一千名、戦傷者三百六十八萬三千名、捕虜と行方不明者七十七萬二千名である。青年志願兵の戦死傷者も勿論多く彼等の残した手記や手紙は絶望と希望、別離と友情、勇猛と可憐等あらゆる人間感情の壯麗な大殿堂を作り上げていまにドイツ青年の胸に生きてゐるのである。

(四) 大戦史に残る青年兵の武勳

彼等はかく祖國を愛せり！

動員令が全國の陸軍に發せられて四週間に二百萬人の出征志願者を出し、實に四十軍團を青年の力で編成せしめることを得しめたドイツ青年の意氣は歎賞するに足るが、彼等が如何に祖國を愛し如何に勇猛果敢なる軍中の華であつたかをしのぶために歐洲大戦史から青年志願兵の武勇談を拾つて見よう……

獨軍がポーランドを攻撃した時だ。ある隊で下士一名、兵二名、自轉車兵一名から成る斥候隊が組織され前村の部落内に進んで敵兵の有無を偵察することになつた。隊中の兵の一名は實に十八歳の可憐なる青年志願兵であつた。

斥候が上官から指示された道路をたどつて村落に到着した一瞬、露軍からは猛烈な一斉射撃が起つて下士と兵一名は忽ち倒され自轉車兵は突差に引き返した。残る青年志願兵は逃げ遅れて多數の敵兵に包圍され無念の捕虜となつて敵の司令部に當られた民家の中に引づり込まれた。居合

進行の團仕奉働勞

(で會大黨のダルベンルユニ)

せた敵の將校の一人は捕虜を若輩と見てあなごりなれ／＼しいドイツ語で獨軍の狀況をたづねた
「味方の戰況は一言もいへない、直ちに射撃しろ」青年志願兵は昂然としていひ放つた。この瞬間
先の自轉車兵の報告を得て獨軍は猛然突かんして來たので居合せた將校連は狼狽して逃げ出した
た一人の將校だけが残つて窓から戰況を見まもつてゐた。青年は隙を見て飛鳥の如くに敵將校
に飛びかかり、相手の拳銃を奪つてこれを打倒したらそこへ引返して來た敵の將校が雪崩のやう
に突入、青年は戸の下敷となつて倒れ銃丸に傷ついた。氣がついた時青年は野戰病院に收容され
てゐた。青年の倒れてゐた家屋はつひに味方の手に落ちたのである。青年はこのやうに奮戦した
上射殺した敵の將校から重要な秘密書類を奪つてゐたので敵の作戰計畫はこれによつて明かにな
つた。青年が名譽の表彰を受けたのは當然である。

西部戦線に近いケルン中學から一人の青年志願兵が出た。彼の屬する一隊は佛軍の突破戦にあ
ひ味方は全く不利に陥つた。味方はバタ／＼とやられ將校も倒れ青年も頭に負傷、鮮血は彼の紅
顔にしたゞつてゐた。しかも青年は傷ついた一下士を救護所へ護送しようとした。下士は苦しい
息の下からいつた「自分に手を貸すよりも君の頭の繻帯が急務だ。出血で君の顔色は眞青だぞ、

早く救護所へ行つて寝ろ」と。勇敢にも青年は答へた

「我隊が今敵の砲火を浴びてゐるのにどうして寝ておられませう、しかし繻帯はして頂きま
せう、私が死ねば誰もあなたを介抱する者がありませんから。」

青年は下士の傍らへひざまづいた。その刹那、一彈飛び來つて下士の腰部を撃ち拂ひ、更に一彈
は青年の胸部を擦過した。二人は折り重なつて倒れた。青年は戦友の死屍累々たる間に刻々死を
待つの外なかつたのである。陽は既に西山に暮き硝煙がたそがれを一層暗くさせる頃獨軍の後續
部隊は漸くに到着した。こゝに友軍が全滅の悲運に遭遇してゐるのを見て隊長は長恨したが、忽
ちかの青年志願兵の姿が目にと止まつた「あゝ彼はまた息があるぞ」隊長は思はず叫んだ。青年は
二、三の兵によつて野戰病院に運ばれたが、この青年志願兵は一個中隊中たゞ一人の生残り勇士
となつたのである。

十三 大戦前夜のドイツおよび各國の青年教育

“强健なる青年によつてのみ國民の幸福なる未來が保證される”

大戦においてドイツ青年がかくも果敢なる奮戦をなし花よりも美しい武勳を立てた理由はどこにあるか。それは一つには秩序ある青年團の訓練の賜であつた。ドイツ青年團は大戦の勃發する三年前、一九一一年に全國的統一を見てゐる。ドイツ皇帝は早くから青年教育の必要、青年の大團結の念を思ひ一九一〇年冬のプロシア議會は青年團費として百萬マルクの支出を協賛してゐる。翌十一年一月十八日には文部大臣の青年教育に關する訓示が發せられ同年十一月各地の青年團代表はベルリンに集まつて會議を開きつひに皇帝陛下の勅許を得、フォン・デル・ゴルト元帥を會長とした「青年ドイツ聯盟」が生れ出したのである。青年の大戦時における活躍の素地はここに出來た。ナポレオン一世がドイツを蹂躪した時、ドイツ國體育の父祖ヤーンは青年に軍事教

練の必要を叫んだが、ゴルト元帥も一八七七年頃から全國に唱導してゐる。ドイツ最初の「青年ドイツ聯盟」は同元帥三十四年の主張と努力により各國にさきがけて設置を見たのである。大戦中ゴルト元帥がベルギー占領地の總督に任ぜられるや元帥は十五歳から十八歳までの青年二十五名より成る青年團をブリュッセルに引卒し、彼等はこゝで彈藥の運送、病院勤務、傳令等の任に當り多大の功績を残して一九一五年一月歸國した。

東部、西部、南部各戦線におけるドイツ青年活躍の礎石を作つた「ドイツ青年聯盟」が一九一一年ベルリンで結成された時、ゴルト元帥は左のやうな宣言を行つてゐる。

— 我がドイツ帝國の強固にして多幸なる將來は實に身體と精神の健全な青年の双肩にかゝつてゐる。我が小學校卒業後の青年に體力を與へ道徳上の善美なる發展を得せしめるためこゝに聯盟が誕生した。實に百萬をもつて數へられる我が小學校卒業生中四分の三は體育と智育を缺いてゐた。我がドイツの嚴父と慈母各位よ、强健なる青年によつてのみ我が國家と國民の幸福なる未來が保證されることは歴史が證明してゐる。故に各位はその子弟を進んでその地の青年團に託されたい —

これと共に青年教育の原則と指針が全国に配布され青年團支部が各地の津々浦々にも組織されるやうになつた。團員は小學校を卒業した十四歳以上入營（二十歳）までの青少年で十七歳以下と以上を以て年少、年長の二組に編成されてゐた。行事としては遠足の外青年文庫の設置、講演會、音樂會、讀書會等が催され遊戯や運動も盛んであつた。青少年は團員となつて軍事教練を受けドイツ主義を謳歌し日々祖國に對する愛情を銘刻して行つたのである。その頃はまさに大戦の前夜であつた。ドイツばかりではなく歐米各國はいづれも青年團の教育に熱中してゐた。一八七〇年の戦役で獨軍から撃破されたフランスでは鬱勃たる敵愾心から早くも一八八一年當時の陸相ビュローによつて全國的な青年教育が唱導されてゐる。ドイツが西部戦線に悩んだのはフランス青年團に施された軍事教練の結果であると傳へられてゐる。オーストリアの青年教育は獨佛よりも遅れてゐた。ロシアは少年軍隊を組織してゐたが、まだ全國的統一の域に達してゐなかつた。イタリヤは青年團教育に努力してゐた。イギリスも南阿戰爭以來青年に軍事教育を施して少年斥候の如き大戦の華を出してゐる。注意すべきはこれ等の青年教育の發達と未發達が戦線における各國の勝敗の數を決定したことでそれは戦後歐米各國の軍部がひとしく痛感したところであつた。

トートレーユの特殊部隊たる音楽青年團
冬季救濟事業の資金募集音樂會

十四 ワンダーフォーゲル運動

人間と自由の希求

戦後廿年の雌伏を通じていま史上曾てなき盛観を呈してゐるヒトラー・ユーゲントはこの大戦の尊い體驗を『内容』とし、戦前、戦後の色々な青年運動を『形式』として生れ出たものといへよう。即ちその組織も歐洲大戦に前提を持ちその態度は軍隊的である。褐色の上着をまどつてベルギーのフラマン地方で戦歿した先輩の血が團員の血でなくてはならぬ。戦ひを崇高視することはホーエン・マイスナーの青年もヒトラー・ユーゲントと同様である。ベルリンのホーエン・マイスナーの廣場では一九一三年十月青年の日に『ワンダーフォーゲル』運動の第一回總會が開かれた。『青年運動の民族』といはれるドイツ人の運動史はその第一ページをこゝに起すのが普通であらう。ゴルト元帥を團長とする『青年ドイツ聯盟』が官製のものであり軍事教練を主目的とした青年團であつたに對し『ワンダーフォーゲル』の運動は十八世紀の中頃以來からの青年の『自由

を求むる心』に結びついてゐる。そしてこの『ワンダーフォーゲル』運動からヒトラー・ユーゲントは青年の自己指導の理想、社會正義の觀念、郷土と友情への意慾を學んだといふ。しかしホーエン・マイスナーで求められた最上のものが人間であり自由性であつたのに對し今ヒトラー・ユーゲントの求むるものは民族の自由であり個性の揚棄である。こゝに決定的な相違がある。それは時代が違ふからだ。

——『ワンダーフォーゲル』はあの時代において正しく『ヒトラー・ユーゲント』は今の

ドイツに正しいのだ。

どシーラツハ團長が喝破してゐるのは正當であらう。

『ワンダーフォーゲル』は一九〇一年當時學生であつたカール・フィツシャーによつて速記生の團體に與へられた名稱でやがて統一的な青年運動となつた。一九一三年の第一回總會には十三團體が參集して『自由ドイツ青年』なる名稱のもとに團結した。その宣言によれば、それは『内的な眞實から生を成さん』との努力から生れたのである。勿論徒歩と漂泊と旅は『ワンダーフォーゲル』の最大の行事である。これによつて彼等は故國への愛に目覺め空氣と太陽の恩恵によつて

健康を謳歌したばかりでなく、渡り鳥文學の創作、ドイツ民謡、民族舞踊の更生と集成等を圖らんとした。紫煙とアルコールは彼等の忌避するもので明朗にして新鮮な生活は自然との親和から生れると唱へられた。

十五 戦後青年の新世界観

徒歩旅行から職業競争へ

『ワンダーフォーゲル』の野營の火にはロマティックの香りが残つてゐる。彼等は戀愛、人生の意味、遠いあこがれについて語り合つたのである。それは楽しく甘い集ひであつた。併しドイツの復興のためには小さな感傷を振り捨てなければならぬ。ヒトラー・ユーダントは『ワンダーフォーゲル』の孫ではあるけれど『ワンダーフォーゲル』が最大のシンボルを徒歩旅行に置いたに對し、むしろ國家的な職業競争のやうなものをシンボルにしようとする。昔の青年が野營の火に集まつて美しい歌を歌ふことのみをことゝしてゐたのに對し、ヒトラー青年は工場の機械の騒音か



指揮者むむとラト少年

ら明日のドイツを打ち出さうとする……時世はすでに一變したのだ。四ヶ年にわたる戦禍—革命—飢饉—失業—癩癩—悪疫—混乱、あまりに永かつた戦後の闇を抜け出すためには先づ青年が目ざめなくてはならぬ!

「諸君らの中に余の時代の青年とは異なる理想を抱き、異なる信念に満ちた新しい青年が誕生した。それは新なる世界觀を持ち青年の美、青年の力について新たなる見解をもつてゐる。過去の青年は單に享樂の中に強者たることを信じて來た。彼等は無意味なお題目を並べることによつて國民的感情を強調出來ると信じ出來るだけ多量のアルコールを攝取することによつて國民の鑑となる信じて來た、否! さうではない。今日ではわれ々の周圍に光輝あるデエネレーシヨンが生長しつつある。」

一昨年のニールンベルグ大會においてヒトラー總統は戦後を回顧して時代の轉變を述べてゐる。歐洲大戰から一九二八、九年までドイツには離散と分裂の無政府状態が引續いた。あの社會的混亂、政治的不統一、思想的癩癩を克服して新興ドイツ國を樹立せんとしてナチスが擡頭したやうにヒトラー・ユーゲンツもまた青年層の覺醒にその使命を見出したのだつた。

——闘争の時代はこれ等老衛兵に跡形なく過去づたわけではない。その精神は常に潑刺と生きてゐる。丁度彼等の信念が動かし難かつたやうに、それはわれ々によつて達せられねばならぬ。ドイツは再び立上るであらう……

クルト・グルーベルがブラウエンの小さな地下室で最初の集團組織を興へて以來、ヒトラー・ユーゲンツは戦敗國の惱みを惱みとして更生の歩調を共にして來たのである。その途中には勿論幾多の苦難があつた。グルーベルがヒトラー・ユーゲンツの生みの親であることはわれ々が前に見たが、彼は司法官試験の試験にパスしたばかりのべうたる身をもつて後援者も資力もなく今日の基礎を確立した功績者である。

グルーベルがザクセン地方で運動の火蓋を切つて間もなくフランケンではルドルフ・グーゲルス(現在の支部長)が活動を開始し多數の地方分團が生れるやうになつた。この二人の努力は一九二九年度の黨大會にヒトラー・ユーゲンツ最初の隊列行進となつて現れ總統に多大の感銘を興へた。しかしグルーベルは黨の内部においてむしろ逆遇されてゐた人で、當時青年團は突撃隊の下に從屬してゐたが同隊の幹部連中には青年運動の重要性についての認識が缺けてゐた。

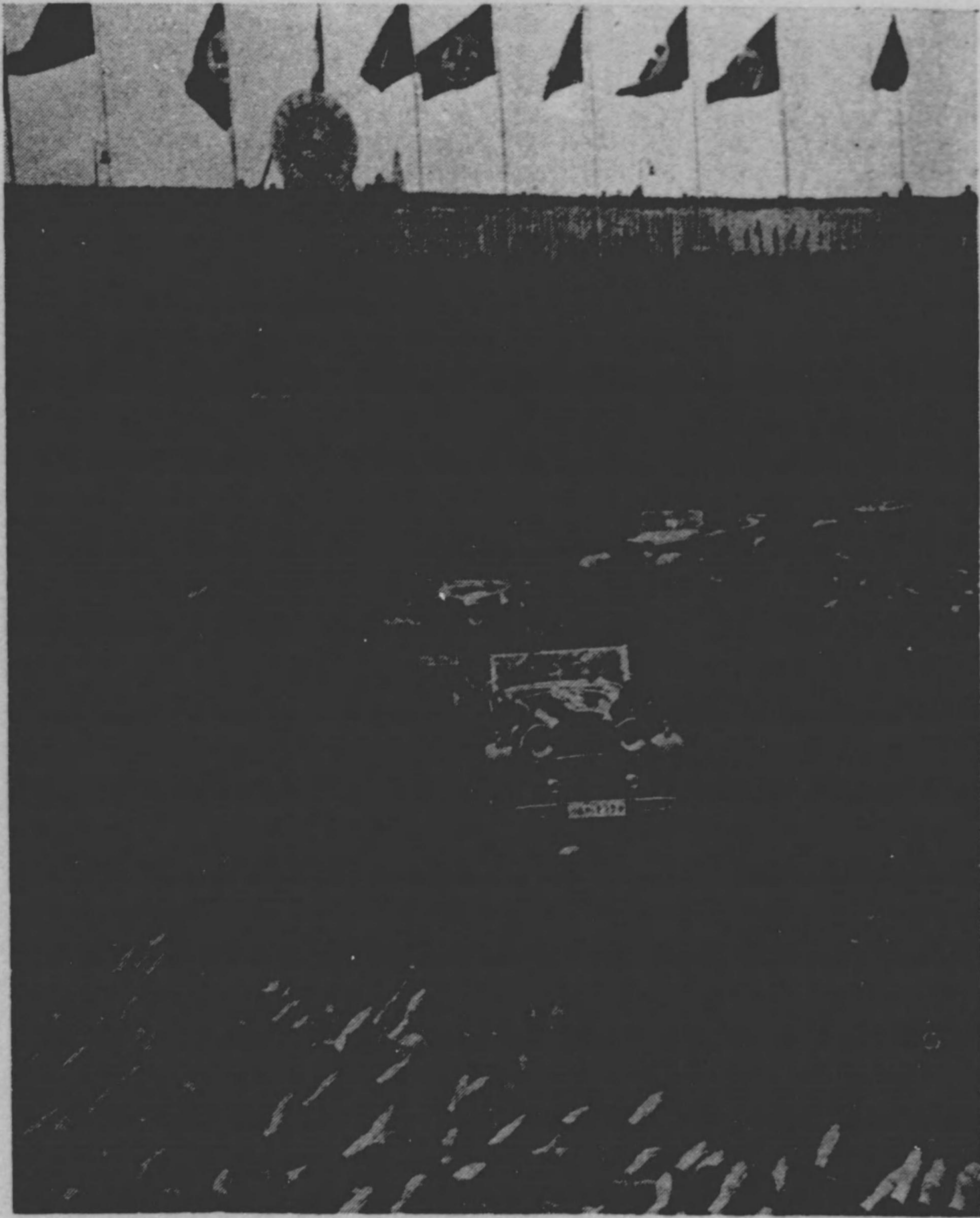
その頃フオン・レンテルン博士とシーラツハはそれ／＼ナチス生徒聯盟に屬して學生運動を行つてゐた、この三人が主宰してゐた三つの青年團體と別にアルフレッド・ローゼンベルク博士の管掌する「驚と鷹」「ゴイゼン」の兩團體があり、これ等の分立してゐた團體が全體主義の下に合流しドイツ青年層を多數傘下に集めた今の統一の地歩が出来たのは一九三三年で、グルーベに代つてシーラツハが團の指揮に當るやうになつてからであつた。同年一月團員は百萬に達してゐた。これは「青年は青年によつて指導されねばならぬ」といふヒトラーの方針が成功した結果と考へられる。

十六 運動の發達史と團の膨脹

團員八百より八百萬に！

「ワングーフオーゲル」や「青年ドイツ聯盟」の外にも大戦前後のドイツには幾多の青年運動團體が簇生し十九世紀の初頭に結成された新教青年團體を始め舊教青年團體、ユダヤ青年團體、

またワングーフオーゲル流の自由青年運動と並んで職業的青年團體、政治的青年團體、スポーツ青年團體等があつた。群雄割據的なこうした状態は大戦後も永く變りがなかつた。併し今やナチスの治下には實際上ヒトラー・ユーゲント以外には合法的な青年運動團體が存在しなくなつた。「全體か、しからずんば無を！」たくましいこのスローガンの下にヒトラー・ユーゲントは國內の諸分派を合流してしまつたのである。恐るべきこの膨脹力の中心となつたのはフオン・シーラツハで、一九三〇年グルーベルの引退と共にヒトラー・ユーゲントは創生期を去つて發展期爛熟期に入つたといへる、シーラツハは一九三一年十月黨の青年指揮者に任命され一九三三年の六月には「ドイツ國青年統帥」となり、彼の青年時代の全部をドイツ民族の青年運動に捧げて來た。それでゐて彼は本年また卅二歳の若さで、指導者の慎重と共に若者の熱情がこの大偉業を遂成せしめたといへよう。彼が團長となつて間もなく突撃隊とのあつ様を解消させるために「青年は青年によつて指導されねばならぬ」といふテーゼがヒトラーによつて公表され、青年團は突撃隊から獨立したが、この獨立もまたヒトラー・ユーゲント繁榮の一因となつた。しかし今日の黄金時代を迎へるまでには多難な建設時代が挿つてゐる。一九三二年の初めヒトラー・ユーゲント



ベリンのスポーツスタジアムに
ベリンの少年少女を呼ぶ

はグリーナーによつて結社の禁止を申渡されたこともあつた。そして『制服も徽章もない』運動の時代が訪れた。この禁止時代にナチスの青年運動に身を投じることは命がけであつた。幾千人もの団員が學校を放逐され、幾千人もの労働者が失業した。彼等は外を歩くにも拳銃を外套の中に忍ばせねばならなかつた。街では礮の嵐が彼等を待つてゐたから。しかし『この時代にこそ本當の人材を得た』とシーラツハも追憶してゐる。雌伏の非公認時代に一身を擲つて青年運動に身を投じた若者こそヒトラー・ユーゲントの世界觀を作り理想を教へたのである。共産黨員との闘争に倒れた者は廿一名に達してゐる。さればこそ今も

“眠れる犠牲者の精神は我等の精神なり、彼等の死闘の理想は同時に我等の生存の理想となる、死者の闘争は我等の運命なり。”

と叫ばれるのである。一九三二年の中頃十萬の団員が初めて一堂に馳せ参じたあのポツダムの日を一轉機としてドイツ青年層の歴史的な支持を獲得した。そしてその一箇月後には西部方面のマルクス主義労働青年はハールトマン・ラウテルバッツヒエルの努力によつて征服された。各地方各種の團體が廢立併合されて行つた。ドイツ青年運動に不動の功績を残したフオーグト將軍の主宰

した『ドイツ青年同盟』の解消はヒトラーが宰相就任後一九三三年度の大問題となつたがこれも同年四月五日ベルリンの支部團員五十名の委員會本部占據により成功した。續いて六月にはトロタ元帥の指導する『大ドイツ聯盟』もヒトラー・ユーゲントの傘下に加はることゝなつた。その結果トロタ元帥はヒトラー海洋青年團の名譽指導者に就任した。藍色の美しいセーラー服に身を固めた海洋青年團は今もなほトロタ元帥の足跡を感激なしには思ひ出せないといふ。かくして

國家政治聯盟、體育聯盟、職業聯盟、社會主義聯盟、共產主義聯盟、ユダヤ人同盟

等多數の青年聯盟を併合改廢して行つたヒトラー・ユーゲントは一九三六年度において總數百十三の團體をあはせ盡くし團員は三百萬に達した。これ等の團體のうちには宗教團體三十七も勿論含まれてゐる。しかしヒトラー・ユーゲント運動に取つて最近の難關となつたものは舊教青年團體との抗爭であつた。彼等は昔マルクス主義者と戦つたやうに信仰の古城を守る信者の群と戦はねばならなかつた。宗教團體のうちでも新教派は比較的容易で一九三三年十二月新大僧正ルードヴィツヒ・ミューラー博士とシーラツハとの會見により新教の青年同盟は交換條件づきでヒトラー青年團に加入した。交換條件といふのは――

新教青年同盟がヒトラー・ユーゲントを國家理想の擔ひ手と認めその團員とならなくては信仰の事業に従ふことが出来ない。その代り特定の週日には新教徒の教會禮拜が許される。

といふのである。その結果新教徒はほとんど全部團員になつたといつてよい。頑固なのは舊教徒で今なほナチスは舊教徒の處置に悩んでゐることである。

彼等は古い傳統に苔蒸した教會に籠りひたすら神の國を讚美するのである。宗教的生活の深い沈潜はどがむべきではない。しかし薄暗い教會で解くことの出来ない勞働と生産の問題を彼等は如何に處置しやうとするのか。ヒトラー・ユーゲントは彼等の宗教には十分に餘裕を與へて彼等を自分らの懷に抱かうと参加をしようとした。

——ヒトラー・ユーゲントは族籍と宗教の如何を問はない。ドイツ性について問ふのであるわれ等は新教派でも舊教徒でもない、我等はドイツ的なのである。

かくてヒトラーの世となつて間もなく百五十萬の青年が舊教派の陣營からヒトラー・ユーゲントに投じたのを初め續々加入を見てゐる。彼等は新興ドイツに『私』を捨て『われ等ドイツ人』八百萬人の大なる讚歌の合唱に加はりつゝあるのである。

十七 整備充實の現状

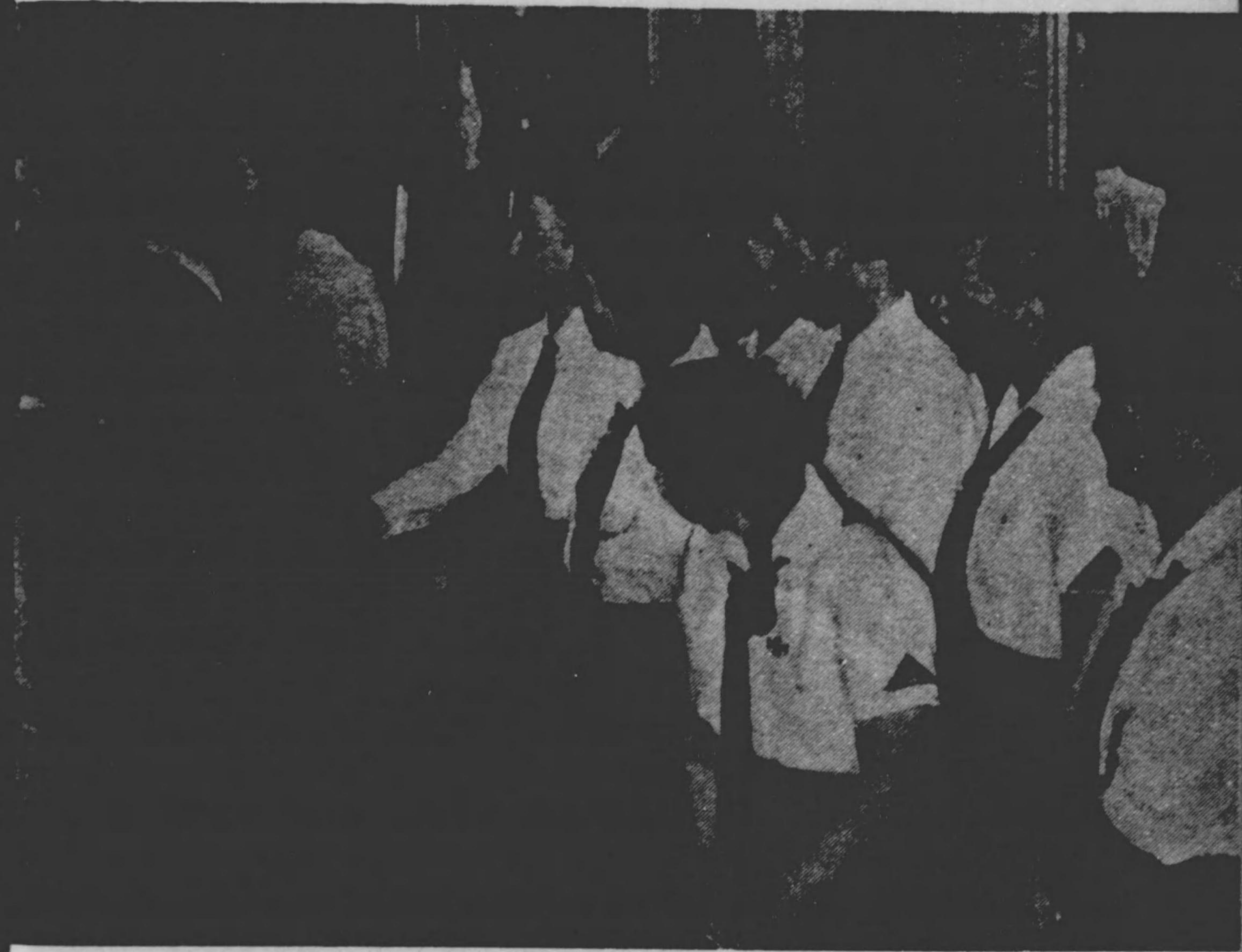
永遠に若きものを求めて……

ヒトラー・ユーゲントの駐日代表シユルツエ氏によれば現在の團員は八百萬を突破してゐることである。一九三六年十二月一日ヒトラー總統から發せられた『青年團に關する法規』によつて團威はますます發揚され、青年指揮者は『ドイツ國青年統帥』の名稱を得、最高官吏の地位を有し總統に直屬する者と定められた。この法と共に『ドイツ青年中央指導廳』は『青年省』として最高官廳の一に列するやうになりヒトラー・ユーゲントに躍進の一轉機を與へた。最近オーストリアの併合によつてウィーンを中心として境國にもヒトラー青年の組織が擴充される模様でその結果はますます膨大なるものとならう。かやうに量的に膨張したばかりでなくその發展期間には質的にも向上し青年運動團體としては理想的な形態を取るに至つた。即ち一九三〇年度には『女子青年部』、一九三一年には『少年團』が誕生し、內的組織も整備されて行つた。集會、徒歩

旅行、野營、遊戯、スポーツ、訓練等の行事も日を追うて盛んとなつた。ナチスの新世界觀を民衆に徹底させるためには教化と啓蒙が印刷物や、ラヂオを通じて行はれて來た。百校に近い指導者學校は確實な基礎を得て國民社會主義的な軍隊的精神と犠牲奉公の觀念を教育し日々青年の師表たる者を養成してゐる。ヒトラー・ユーゲントに屬する團員は生徒を除いては多く職業に従事してゐる職工であり、店員であるため、經濟活動への顧慮から『職業競争』が最大事業の一となつてゐる。各地各州から選拔された各種職業分野の技能代表者が五月一日の勞働祭日を期して首都ベルリンに參集し、工場や職場を中心に技術競争を實施するのである。そして見事優勝の榮冠を頂いた男女青年はヒトラー總統の前に進んで總統自らの握手を賜はり激勸の言葉を與へられるのである。この日はベルリン市街に勞働者の大デモンストレーションが行はれ力と汗を謳歌する大行進が市民を喜ばせる。

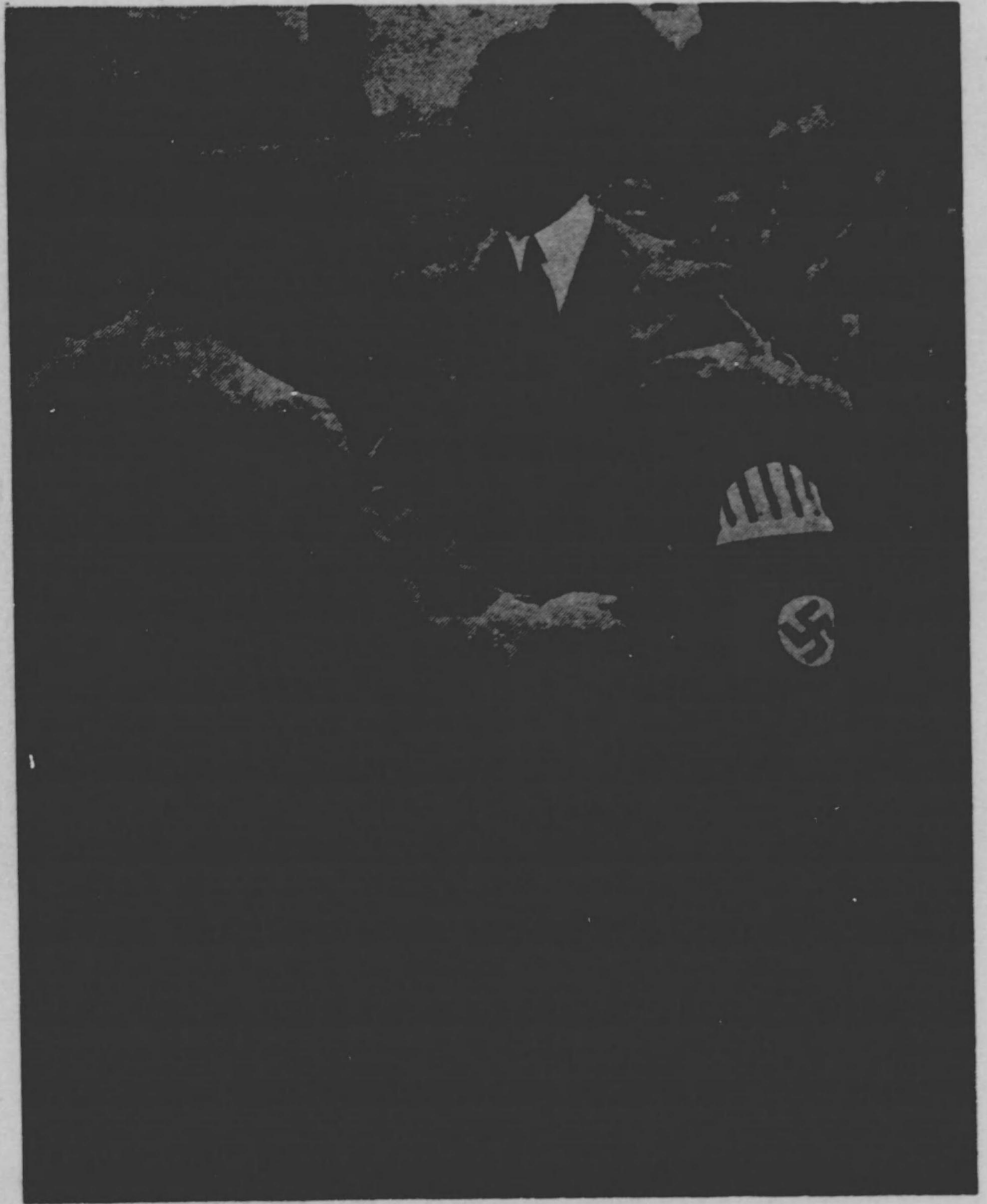
職業相談、職業輔導等の職業青少年に對する施設は非常に完備して、幼く若き者をも喜びの中に社會生活を營ませ様と努力してゐる。農村で耕作を手傳ひ農家への勞働力を補給しようとする『農村奉仕』、女子青年部が行つてゐる都會地での家政見習、工業地や農村での幼稚園經營も





に年青子女たし勝優に技競業職
統總一ラトヒるへ與を手握

ヒトラー・ユーゲントの事業に屬し、國民的義務としての『労働奉仕』を補足してゐる。健康ド
イツの勃興を指してヒトラー・ユーゲントが如何に保險施設、體位向上に努力してゐるかをわ
れ／＼は前にも見たが、現在專屬醫師四千名、藥劑師五百名が各地に派遣され團員の衛生と保健
に努めてゐる。講習を終へて衛生員または看護婦の資格を得た指導者が既に七萬五千名に上つて
ゐるといふ事實だけでも、『保險指導局』の活潑な活動を知ることが出来よう。青年省にはこの外
文化・ラヂオ・出版宣傳・社會・世界觀教育・體育・訓練旅行の各局がある。これ等の全機能を
あげて諸種の事業を行つて來たヒトラー・ユーゲントにとつて最近の重要問題は文化局を通して
行はれる文化事業の普及と徹底である。たとへば本年六月十五日付の『ベルリーナー・ターゲブ
ラット』紙によれば、シーラツハ團長が詩都ワイマールにおいて國民詩人シルレルの祝祭記念演
藝會を開催する旨を報じてゐる。大詩人は最深の國民的活力の源泉であり國民最高の教育者で
あらう。ドイツでは農村も今日の時代では近代的なグラウンドやプールの施設に恵まれなくては
ならず、ダンスと遊戯を樂しまれなくてはならぬといはれる。人形芝居や彫刻の研究所が青年省
で計畫されてゐる。音楽は特にドイツ人にとつては永い傳統の遺産であるから、ヒトラー・ユー



と員團年少ツイド
統總一ラトヒるす戲嬉

ダントにも音楽教育を徹底して若い指揮者が養成されやうと計畫されて居り、來春はザルツブルグにモーツアルト演奏會、これに續いてバツハ演奏會の盛大な開會が企圖されてゐる。シーラツハ團長のいつてゐるやうに『第九シンフォニー』はゲーテの『ファウスト』ヒトラーの『闘争』と共に『永遠に若きもの』である。時間と共に移ろふことなき永遠の生によつてドイツ青年は常に若き力を擲さねばならぬと彼は叫んでゐるのである。

十八 青年教育の三位一體

家——學校——青年團

現在のドイツは青年の健在な發達を圖るため三つの力を考へてゐる。両親の家、學校、そしてヒトラー・ユーダントである。家族といふものは國民の最小の單位である。よきドイツ人はよき家庭から生れよう。ヒトラー・ユーダントは家庭生活や両親の訓育を否定しようとはしない。むしろ家庭の精神的協力を得て始めて訓練の實果を擧げ得るものとする。両親は相補ひ相助けて健全な青年の育成に努めなくてはならない。即ち両親は實生活の經驗を子供に與へ、若い者の心を

家庭生活の體驗で満たす事によつて。また青年團は國家社會主義の要求を若い世紀に告げ求めさせることによつて……職業についてゐない團員は全部學校に通つてゐる。よき團員であることのためにヒトラー青年が悪しき生徒となつてはならない。と同時に學校ばかりに偏してもならない。學校は「上から」の教育を行ひヒトラー・ユーゲントは「下から」の教育を行ふのであるから兩者は決して矛盾しないと考へられる。「學ぶ」こと、「訓練される」ことは異なるものであると同時に「教へる」こと、「指揮する」ことも異なつてゐる。先生と指揮者はそれ／＼の貴い義務を遂行することによつて少年と青年を叩き上げてゆくことが出来るのである。ヒトラー青年は單に學ぶのでもなく單に政治運動を行ふのでもなくまた單にスポーツと遊戯を行ふのでもない。彼等は全く新しい社會組織、新しい時代を求めて進む壯大なマーチに参加してゐるのである。かくてこそ彼等は「新しいドイツを建設して行く群」であらう。

十九 歐米の青年運動と日本

廣く世界青年の長を集めて！

世界大戰によつて國家の力が如何に青年の力に依存してゐるかを學びとつた歐米はいづれも青年運動に努力して來たので、ヒトラー・ユーゲントに比肩すべき運動が現在の各國に出來上つてゐる。イタリアではよきファシストを養成するため「バリラ運動」が行はれ、所屬團員は四百萬に達し、日に十萬の教官によつて次代の基礎を作る教育と訓練が行はれてゐる。チェコスロヴァキアにもテイルシユナー博士とマサリック大統領の創意になる「スコール運動」があり、國民の力と健康を増進することによつて國家觀念の養成に努めてゐる。ボーイ・スカウトの國米國でも青年教育運動(N.Y.A)が旺盛な活動を続け、昨年度には實は八千萬ドルの教育助成金が支出されてゐる。その中でもヒトラー・ユーゲントの如きは模範的なものと見なされよう。ひるがへつて我國においても青年團を中心に青年運動は漸次整調強化の道を進んで居り、時局の新段階と共に新たなる検討の火に照らし出されるやうになつた。日本には日本固有の精神があり歴史がある。徒らに歐米の模倣に流れることはいましめなければならぬが、これ等を他山の石として健全なる青年運動の發達が待望される。

附
勞働奉仕

ドイツ國民に對する名譽の奉仕

木戸、荒木兩文相の指示に基いて、勤勞奉仕運動はいま全日本を席捲してゐる。わが國にとつてはこれは目新しい運動であつて勞働奉仕制度についてはドイツは遙に先進國であつた。

——我々にとつて勞働は人生の一部である。我々は勞働を闘争の姉妹と考へる。勞働と闘争とが無ければ我々の存在は落莫たる病室のやうなものである。

ドイツ勞働總監コンスタンチン・ヒーレルによつて新しい勞働觀が樹立されて以來、すべてのドイツ人はその生涯の一定期間筋肉勞働者として國民のために勞働を奉仕することになつた。今までヒトラー・ユーゲントの現状と發展史を眺めて來たわれわれは青年運動と車の兩輪のやうな關係にあるドイツの「勞働奉仕」(アルバイツ・デーインスト)について概觀したいと思ふ。

「ドイツ國家は全ドイツの故郷である」



支給されたる被服を運ぶ新入の
勞働奉仕員

數世紀にわたつてドイツ人の父祖はドイツの土壤をたがやして來たのである。彼等の生活が大
地から遊離するなら彼等の存在さへ影が薄くなるだらう。ナチスは政權を獲得して間もなく總統
並に聯邦總理アドルフ・ヒトラーの名をもつて一九三二年一月『勞働奉仕法』を發布してゐる。
その第一條に「勞働奉仕はドイツ國民に對する名譽奉仕なり」とあつてアルバイツ・デイーン
トは民族即ち國家の名譽に對する汗の奉仕であることが示される。この發布によつて從來國民の
自由意志にゆだねられてゐた勞働奉仕が強制的な義務となつた。十八歳以上二十五歳のドイツ國
民はヒトラー・ユーダント修了後の國民的義務として一定期間勞働に従事しなくてはならない。
國民はすべて個人的身分を捨て教養の靴下を脱いで階級を超越した協同勞働作業を行ひ、眠れる
郷土愛を呼び醒し隣人との同僚愛に生き汗と背のうちに新しい世界觀を建設して行くのである。
都會の市民も農村の住民も同じシヤベルを振り上げ同じ鍬を握ることによつて都會人はビルとア
スファルトの文明病から救はれ、農村人は農事への認識を新にし勞働力の都會集中の傾向は徐々
に匡正されることが出来る。

勞働奉仕の義務期間は小學校卒業後四年間、高等學校卒業後二年間、大學卒業後一年間でこの

體験を経なければ一人前ではなく俸給生活にもつけない實情になつてゐる。一九三六年四月以降
女子も十七歳から二十七歳までの間に勞働奉仕團に加入することになり今では重要な嫁入準備の
一つになつてゐる。ドイツ全土の勞働奉仕團は三十勞働域に分れ域はまた多數の群團に分れ、ヒ
ーレルが總監として全權を掌握してゐる。過去五年間において勞働奉仕を済ませた者が今日まで
に實に二百萬に上るといふ。

奉仕團に加入すると共に團員は輕快な開襟のスポーツ服を支給され麥穗のマークがついた鋤を
かついで丁度入營したやうに一切が軍隊式になる。入團中の訓練と勞働の生活は毎日午前六時
の起床から午後十時の消燈までキッチンと時間的規律に従はねばならぬが、一日の勞働時間は僅か
六時間で他は教育的意味を持った集團的訓練に當てられてゐる。その間には式典や祭典の夕が催
され文化的教養も注入される。勞働に従事する團員には一日一マルク五十ペニツヒの費用が支出さ
れ、その内現金二十五ペニツヒが小遣として渡される。

勞働奉仕は體育と勞働の尊重を通じて郷土愛と同志愛、更に新世界觀の涵養が行はれるために
ヒーレルによつて樹立された制度だが、勞働者の生活をおびやかすことなく全國民の汗を必要と

する程に労働が要求されてゐたのも事實で、土地排水、植林、道路開設、土地改良、河川改修、森林道路開設等に労働奉仕は顯著な実績をあげて來た。ベルリン郊外のオリンピック競技場の壯麗な施設を始め各地の野外劇場、自動車専用道路等労働奉仕の賜物になる大事業は相當の數に上つてゐる。

(終)

ソ聯の研究者
大崎協理家

吉村柳里著

〔定價金六十錢〕

ソ満國境風雲急

最新刊

ソ聯を解剖す

日ソは果して戦ふであらうか。日ソの衝突がもし宿命的に來るものであるとするならば、我が國が支那事變によつて國力を消耗してゐる間にも尙勝算が持てるものであらうか。本書はソ聯邦の内部及び歐露方面より蒐集した新しい資料によつてソ聯の真相を解剖しそれをありのままに傳へた。ソ聯に關する我々の凡ゆる疑問はすべて本書によつて解決する。國民、特に次代を擔ふ青年の常識として本書は一讀すべきである。

内容の大略

—— 肅正に備まざるソ聯…… 戦慄すべきゲ・ベ・ウ…… 民衆の生活……
ソ聯の婦人問題…… 青年は何を考へてゐるか…… 反宗教運動…… ソ
聯の重工業…… ソ聯の農業…… 輸送力について…… 赤軍と日ソ關係

發行所 日本青年館 電話 東京 四一〇六二 山一 四一〇六二 香八 七〇六二

昭和十三年八月十五日印刷
昭和十三年八月二十日發行

ヒトラー・ユーゲント
〔定價三十錢〕

著者

報知新聞社通信部

印刷者

熊谷辰治郎

印刷所

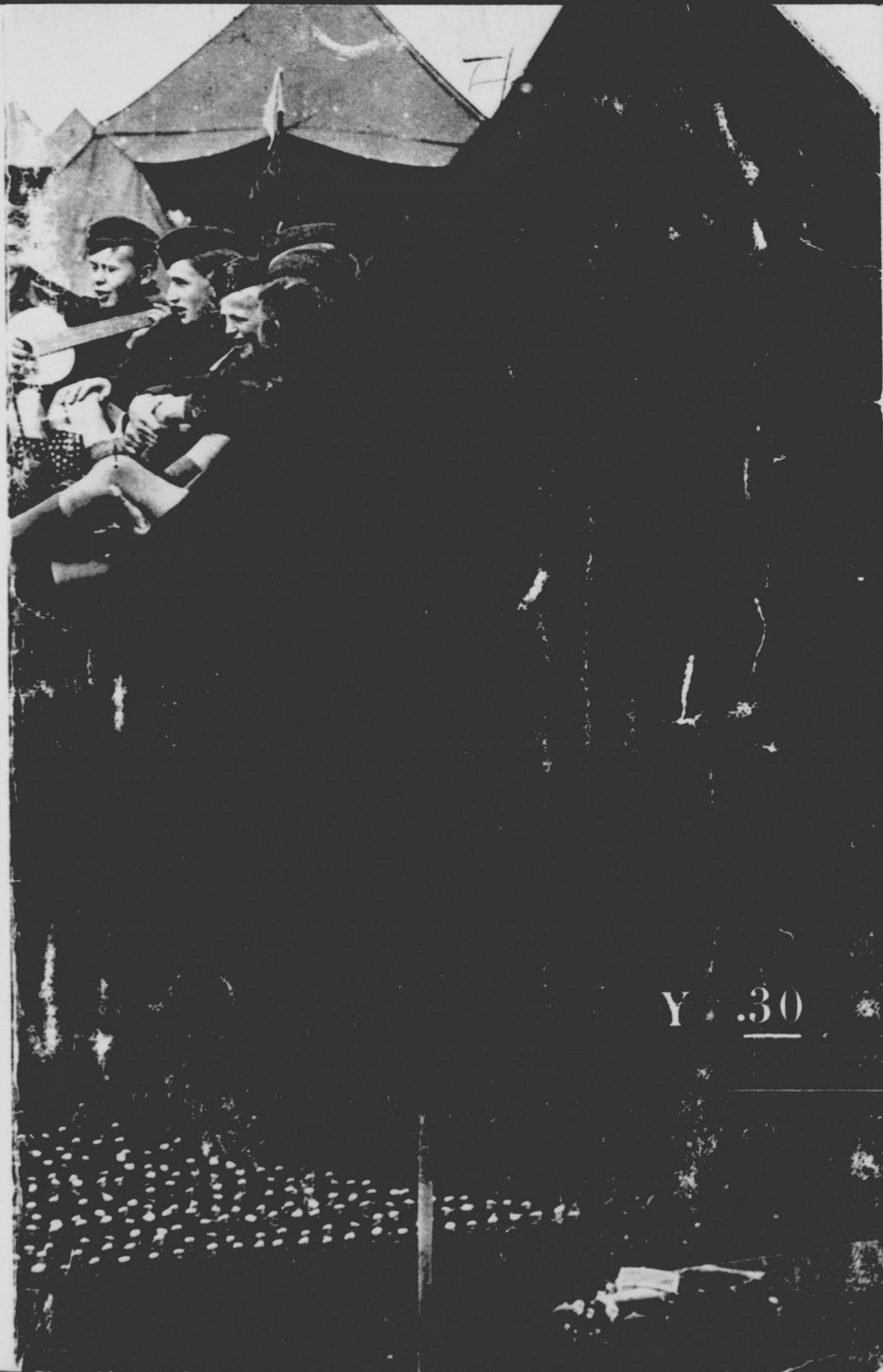
鎌細川活版所

東京市四谷區明治神宮外苑霞ヶ丘口

財團法人

日本青年館

電話青山四二六〇―四番
振替東京六〇七七八番



Y .30

